

Sustainability Report 2004

イオン 環境・社会報告書 2004



私 たち が 受 け 継 い で い く も の



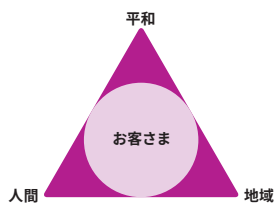
私たち一人ひとりがイオンです。

お客さまとともに「永続的な社会」をつくり、
「夢のある未来」を見つけていきたいと願っています。

イオンの基本理念

“ AEON (イオン) ”…ラテン語で「永遠」を表します。

私たちの理念の中心は「お客さま」
イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、
最もお客さま志向に徹する企業集団です。



[平和]イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。
[人間]イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。
[地域]イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオン宣言

イオンは、
日々のいのちとくらしを、
開かれたことと活力ある行動で、
「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。



目次

2003年度 イオン サステナビリティ・トピックス

「イオン行動規範」の制定	04
リスクマネジメント体制の確立	06
開かれた経営に向けた2つの改革	08

透明性・倫理性からみるイオンの「経営」

国内外で共有するグループカルチャー	11
社内外のご意見を経営へ	12
従業員が安心して働ける職場づくり	14
地域と活きるSC(ショッピングセンター)へ	16

商品・サービスを通してみるイオンと「社会」

PB(プライベートブランド)商品への取り組み	19
店頭と社会貢献との新たな接点	22
イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)の制定と推進	24
お客さま視点での活動	26
ユニバーサルデザイン化の推進	28

店舗から地域・地球へとつながるイオンと「環境」

植樹を通じたコミュニティづくり	31
お客さまとイオンを結ぶ活動	32
お客さまとともに行う体験活動	34
店舗から始まる環境保全活動	36
企業市民としての社会貢献活動	40

資料・まとめ

イオン環境マネジメント推進体制について	42
環境会計報告	43
ISO14001の目標と実績	44
第三者評価 「イオン 環境・社会報告書2004」について	46

編集方針

今回は「イオン株式会社 環境報告書」から「イオン環境・社会報告書(サステナビリティ・レポート)」へと名称を変えて2回目。環境報告書として発行が始まった1996年度から通算すると9回目の発行になります。イオンが「お客さまとともに」今まで取り組んできたこと、これからめざしていくことを具体的にかつ簡潔にご報告したいと考えて、副題を「私たちが受け継いでいくもの」としました。また、イオンには158社の企業があります。すべての企業を取り上げることは誌面構成上でできませんが、先駆的、象徴的な取り組みについて、あるいはイオン全社が協力して行う取り組みについて掲載しております。不足する点については、それぞれの企業のホームページ等をご参照ください。

※文中の「イオン」とは、13事業合計158社の総称です。「イオン(株)」はイオン株式会社を指します。

レポート対象範囲 イオン158社

レポート対象読者

お客さまのほか、株主・グループ全店舗の近隣住民の方々・お取引先・NPOそして従業員など、イオンに関わるすべての皆さまを対象とさせていただきます。

レポート対象期間 2003年度(2003年2月21日～2004年2月20日)
※レポート対象範囲において決算時期が異なる等の理由により、一部対象期間が異なるデータには対象期間を明記しています。

Sustainability Report

(サステナビリティ・レポート)

※各項目が経済・環境・社会のどの側面に関連するかを、右のアイコンで表示しています。



本書は環境への取り組みに、企業活動の経済性・社会性も観点として加えたサステナビリティ(持続可能性)報告書です。作成にはGRI(Global Reporting Initiative)を、国際的ガイドラインとして参考にさせていただきました。

グループ主要企業一覧 *株式公開企業

GMS事業<総合小売事業> *イオン(株) *イオン九州(株) *Jaya JUSCO Stores Bhd. *AEON Stores(HongKong) Co.,Ltd. 琉球ジャスコ(株) (株)マイカル (株)マイカル九州 (株)ボスフル Siam JUSCO Co.,Ltd.	Guangdong JUSCO Teem Stores Co.,Ltd. Qingdao AEON Dongtai Co.,Ltd. Shenzhen JUSCO Friendship Stores Co.,Ltd. Taiwan AEON Stores Co.,Ltd. スーパーマーケット事業 *マックスバリュ北海道(株) *マックスバリュ東北(株) *マックスバリュ中部(株) *マックスバリュ西日本(株)	マックスバリュ東海(株) マックスバリュ九州(株) (株)カズミ ドラッグストア事業 *(株)ツルハ *クラフト(株) *(株)スギ薬局 *(株)CFSコーポレーション *(株)グリーンクロス・コア	*寺島薬局(株) (株)メディカルー光 タキヤ(株) (株)ウエルパーク (株)いいの (株)クスリのアオキ ホームセンター事業 *ホームマック(株)	コンビニエンスストア事業 *ミニストップ(株) デパートメントストア事業 (株)ボンベルタ伊勢甚 (株)ボンベルタ (株)橘百貨店 専門店事業 *The Talbots,Inc.	*(株)ブルーグラス *(株)コックス *(株)やまや タルボットジャパン(株) ローラアッシュレイジャパン(株) (株)イオンフォレスト (株)メガスポーツ クレアーズ日本(株) (株)ニューステップ アビリティーズジャスコ(株) (株)ブックバーン	ベクトンシティ(株) メガベトロ(株) ディベロッパー事業 *(株)ダイヤモンドシティ *イオンモール(株) (株)ダイヤモンドファミリー ロック開発(株) 金融サービス事業 *イオンクレジットサービス(株)	*AEON Credit Service(Asia) Co., Ltd. *AEON Thana Sinsap(Thailand) Plc. AEON Credit Service(M) Sdn.Bhd. AEON Credit Service(Taiwan) Co., Ltd. サービス事業 *(株)イオンファンタジー ジャスベル(株) リフォームスタジオ(株) (株)ツヴァイ (株)イオンテクノサービス	イオンシネマズ(株) (株)品質管理センター フードサービス事業 (株)グルメール (株)マイカリスト 物流加工・商事事業 チェルト(株) (株)フードサプライジャスコ アイク(株)	Tasmania Feedlot Pty. Ltd. eコマース事業 (株)イオンビステー ・イオン1%クラブ ・(財)イオン環境財団 ・(財)岡田文化財団
--	--	---	--	--	--	--	--	---	---

「イオン行動規範」の制定

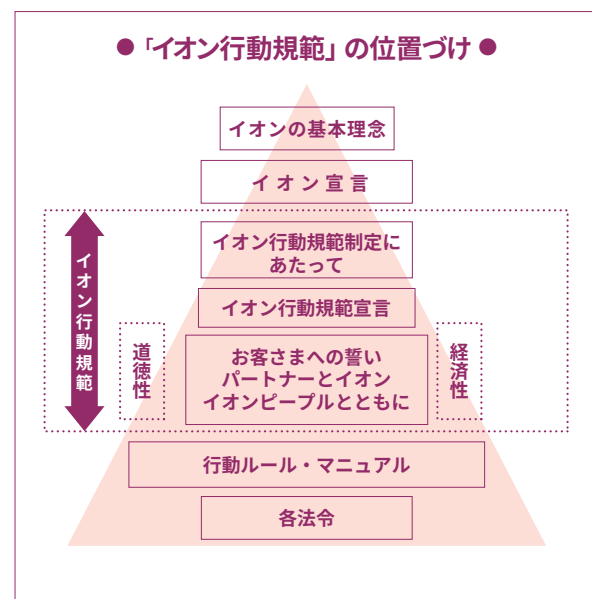
お客さまとイオンの最大の接点は従業員。 だから、毎日の行動や考えかたのモノサシをつくりました。

イオン行動規範——すべては、お客さまのために。



イオンにはお客さまを中心として平和・人間・地域の三要素を配した「イオンの基本理念」(2ページ参照)があります。この基本理念を実現していくにはどう行動すべきかをイオンピープル全員が共有するための具体的な指針として、2003年4月「イオン行動規範」を制定しました。

つとめ、株主利益を実現させる」ためとしました。また各項の行動基準は、必要に応じて見直しを行い、改訂していく順応性・発展性も持たせました。つまり「イオン行動規範」とは、イオンピープル一人ひとりが「夢のある未来」に向け限りない挑戦を続けていくための、スタートラインともいえるのです。



「イオン行動規範」では
①お客さま②地域社会③取引先④株主⑤イオンピープルという5つの柱を立て、それぞれに考えかたと具体的な行動基準を明文化しています。とくに②③④はイオンの「パートナー」と位置づけ、あるべき関係を②は「企業市民として、地域の人々とともに発展に貢献する」、③は「公正な取引を通じ、お互いの繁栄をめざす」、そして④は「革新的で健全な経営に

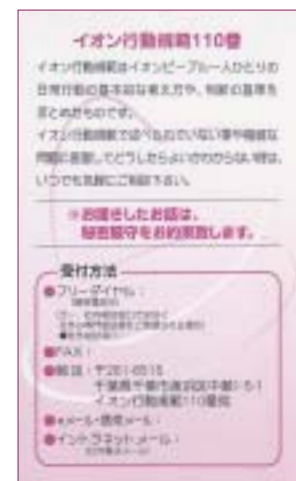


一人ひとりが理解し、実践していくために。

「イオン行動規範」の導入にあたっては、まずイオン各社のトップマネジメント層や各店舗・事業所の店長・管理者層を対象として、「イオンの基本理念」と企業倫理の基本的な考えかた、「イオン行動規範」で求められる考えかたを理解するための研修が行われました。さらにこれを受けて各社の企業倫理推進窓口や店舗・事業所の店長などが中心となり、それぞれの業態・職場の状況にあわせて、新規入社時や資格登用時

の教育・各階層別の教育などが順次計画・導入されています。

研修では、さまざまな事例をもとに「イオン行動規範」に基づいてどう行動すべきかを学びます。ビデオやグループディスカッションを通じて自ら考えることで、「イオン行動規範」への理解を深めるカリキュラムとなっています。



とはいえ、毎日の職場では「こんなときどうすれば」「あの行動は本当に正しいのか」と悩む場面があるかもしれません。そこでイオンピープルが迷ったとき気軽に相談できる窓口として、「イオン行動規範110番」を設置しました。一人ひとりの悩みや問題意識をイオン全体で共有し、迅速な解決を図っていく相互支援制度としても機能するものです。

❶「イオン行動規範」は、イオンのホームページでも全文を公開しています。
<http://www.aeon.info/> ➡ グループ企業紹介/IR ➡ イオン行動規範



イオン株式会社
取締役兼代表執行役社長

西田 昌樹

私たちイオンは、世界の小売業の「グローバル10」企業として社会から信頼されることをめざし変革を続けています。それは、経済的側面だけでなく「良い会社」として社会から評価を受けられる企業になるという強い意志とビジョンでもあります。

私たちは、経済的成長と環境保全を含む社会貢献活動は決してトレードオフの関係でなく、車の両輪であり企業活動の中核であると考えています。安全と環境に配慮した安心な商品である「トップバリュ」の開発と販売の強化や、お客さまとともに行う省資源活動である「マイバッグ、マイバスケット運動」あるいは「イオンふるさと森づくり」といった地道な環境保全活動を継続実施しているイオンに対し、お客さまがより強い期待を抱いていただき、支持をしていただくことは、イオンにとってブランディングにつながり、次の成長への大きなエネルギーとなることを確信しています。私たちはそのために不断の変革を続けます。

私たちイオンでは、創業以来正直に正しい商売をすることが受けつがれてきました。また、いろいろな企業や業態が集まることで発展してきた歴史があります。私たちはその過程で「多様性」と「異質なものへの寛容性」を企業体質として育んできました。昨年、私たちは「マイカル」をはじめ多くの新しい仲間グループ入りを実現しました。そして同時にこのような「多様性」に富んだ組織のグループシナジーを追求するためにも「コーポレートガバナンス改革」と「グループマネジメント改革」をスタートさせました。これらの改革は、グループとしての環境保全、社会貢献活動の実践においても強い推進力となるはずです。各社のノウハウやベストプラクティスの共有化は「良い会社」をめざすイオンにとって強力な羅針盤になります。

このたび、イオンの2003年度環境保全、社会貢献活動を報告させていただくにあたり、昨年以上にグループの視点に重きをおき、国際規格であるGRI(グローバル・レポーティング・イニシアティブ)の考えかたを取り入れ多面的な報告書といたしました。

今後ともお客さまの期待と信頼に誠実に応えながら、イオン宣言にある「夢のある未来」の実現に向け、ためらうことなく変革に挑戦してまいります。一人でも多くの皆さまにご理解をいただくとともに、ご意見・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

リスクマネジメント体制の確立

事故は、あらゆるデータと想像力を駆使して未然防止に努めます。 その上で、万への備えも同じくらい重要、とイオンは考えます。

グループ全体で取り組む「イオン合同防災訓練」—— 東海地震対策などを想定して

企業活動におけるリスクは経済的な面のみならず、人為的要因や自然災害など、あらゆる局面に潜んでいます。イオンでは常にお客さまに安心してお買い物を楽しんでいただけるよう、また万一周辺地域が罹災した場合には、被害にあわれた方々を迅速・的確に支援できるよう、日頃からできる限りの備えをとっておく方針が、全組織で共通化されています。

特に突如襲ってくる地震への対策は、全従業員が冷静に対処し、迅速に行動できる体制の確立を急務と位置づけています。現在イオン各社では、意識と行動の両面から配慮した訓練を定期的に行っています。

2003年度は9月1日の「防災の日」に、イオン(株)をはじめイオンモール(株)、(株)マイカルなどが全国各地で、またマックスバリュ東北(株)、イオンクレジットサービス(株)、リフォームスタジオ(株)、(株)ブックバーン、タルボットジャパン(株)など業種・業態を超えた各社の参加により、計1,328の拠点で「イオン合同防災訓練」を実施しました。

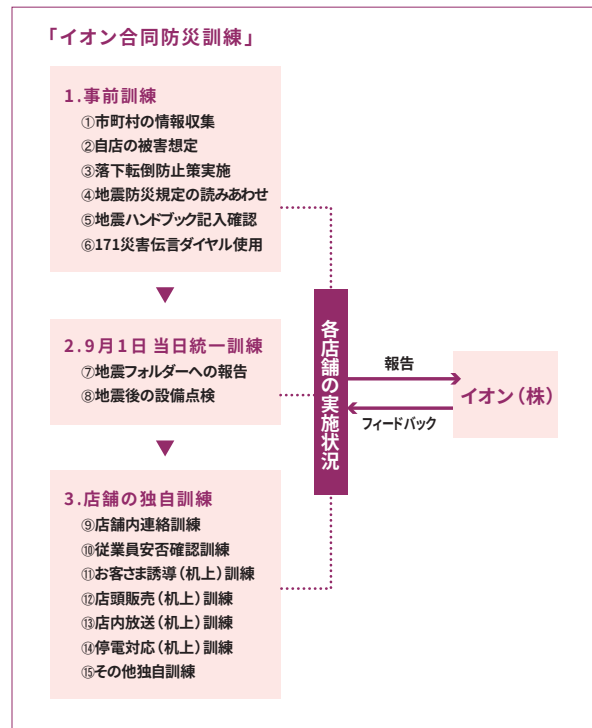
今回の「イオン合同防災訓練」は、事前から取り組むものと当日一斉に行う統一訓練、さらに各店舗が独自に想定し実施する訓練という構成をとりました。事前訓練は市町村からの情報収集、自店の被害想定や「171(災害伝言ダイヤル)」の使用練習など。これを踏まえた当日の統一訓練では各店からの報告や地震後の設備点検実習を全国で行いました。店舗独自の訓練も、お客さま誘導・店内放送・停電対応のほか店舗内の連絡や従業員安否の確認など、多面的な内容で実施されました。

各社の実施状況はイオン(株)総務部でとりまとめ、さまざまな実情を反映させた参考事例として全国にフィードバック。報告書式の統一など今後の改善点も浮き彫りになりました。

この「イオン合同防災訓練」は今後も9月1日(防災の日)と1月17

日(阪神・淡路大震災発生日)に定期的に行い、全従業員の意識化、行動化の精度向上を図っていきます。

また、中部・東海地区の各店(オープン準備中の店舗を含む)では、東海地震を想定した防災設備の設置と訓練も、独自に実施していく予定です。もちろん計画の推進に伴って得られた情報や安全への改善提案は、全国の店舗で共有します。地震災害による被災者救援は、発生から72時間の初動段階が重要とされます。イオンでは周辺住民の方々へ一時避難場所や医療拠点、食料・救援物資の配給拠点、入浴施設など、生活に必要な緊急支援を行うことで、地域の災害対策に貢献したいと考えています。



イオン大和ショッピングセンターにおける事故について

2003年11月5日早朝、イオン大和ショッピングセンター(神奈川県大和市)の生ゴミ処理施設で爆発事故が発生しました。核店舗であるジャスコ大和鶴間店に設置されていた生ゴミ処理機から原因不明の煙が発生し、消火活動を始めた約10分後に爆発が起きたものです。消防士や警察官計11名が負傷(うち3名が入院)、建物も一部損壊しました。

近隣住民の方々をはじめ、お客さまや関係諸官庁等にも多大なご迷惑・ご心配をおかけしたこの事故は、2004年3月末日現在も警察・消防等により原因を調査中ですが、イオンでも事故直後からその原因に対して、安全工学協会に依頼し、自主的に調査を進めています。

また他店に既設の生ゴミ処理機については、各店の運用手順をはじめとするさまざまな情報をイオン(株)本社で再確認するなど、

個人情報保護に向けたセキュリティ イオンクレジットサービス(株)の場合

相次ぐ企業からの顧客情報流出・漏洩事故に備え、イオンでは個人情報保護のマネジメント体制にも力を入れています。その一端として、約1,210万人^{*1}の方々にクレジットカードをご利用いただいているイオンクレジットサービス(株)では、2003年1月「プライバシーマーク^{*2}」の認証を取得しました。

認証にあたっては、2002年に同社が制定した「個人情報に関する



コンプライアンス・プログラム」が高く評価されましたが、同社ではプログラムの運営以上に“従業員の教育”を重視しています。いかに高度な保護システムも、従業員のモラル

事故を絶対に繰り返さない、徹底した体制づくりを進めています。イオンは食品廃棄物のリサイクルは社会的に重要な課題と認識しています。これからも「食品リサイクル法」で定められた登録再生利用事業者との連携によるリサイクルの推進や、自社での生ゴミ堆肥化など、最適な方策を選択し課題解決に取り組んでいきます。被害者の方々と関係各位、お客さまと社会に再々お詫び申し上げますとともに、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。



朝日新聞 2003年11月5日付

が低くては意味をなさないと考えるからです。同社では個人情報保護の重要性から法知識、倫理・マナー的な内容までも網羅した研修を約800人の社員はもちろん、約2,000人のパート従業員・会員募集業務に就く外勤スタッフ約3,700人にも実施。データ室への徹底した入出・作業管理(グループ社員であっても顧客データは一切渡さないルールが徹底されています)と両輪で、最新のセキュリティモデルを構築しています。

またシステムトラブルや万一の情報流出に備えては詳細なマニュアルを整備しており、組織全体を俯瞰したリスクマネジメント体制の確立に向けても、業界に先駆けた取り組みを行っています。

※1 2004年2月末現在

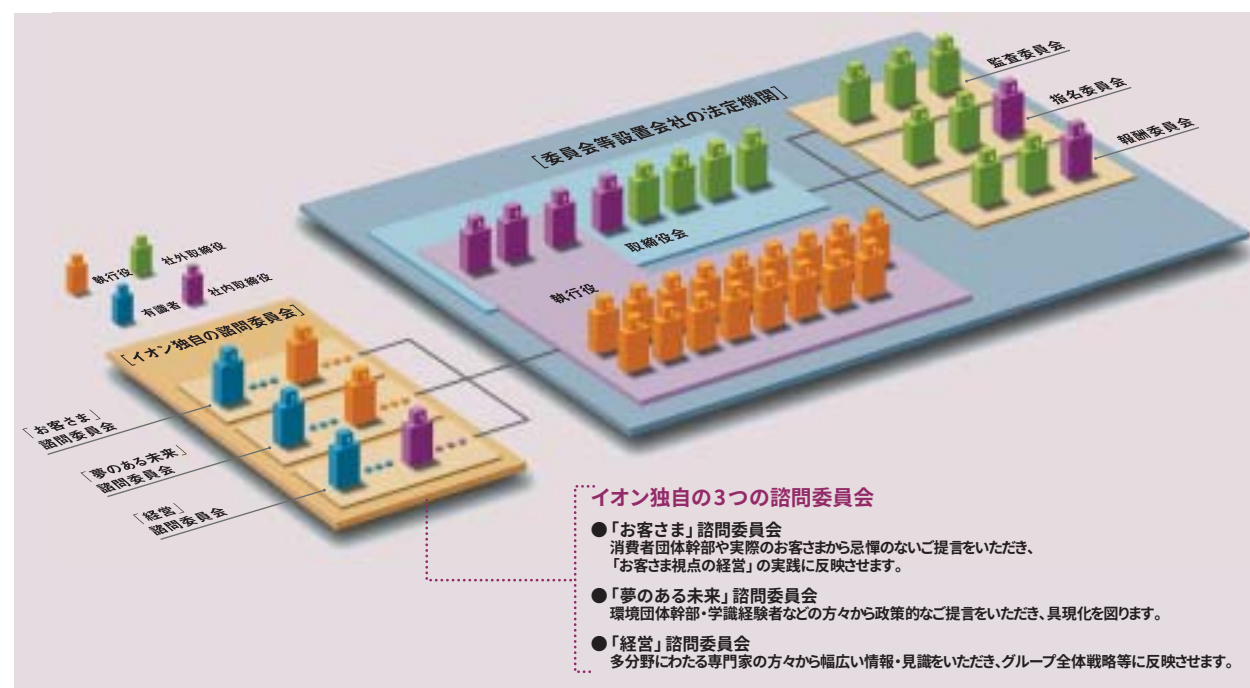
※2 (財)日本情報処理開発協会が審査・認定した「個人情報保護に関する事業者」の証として使用を許されるマーク。

開かれた経営に向けた2つの改革

お互いが磨きあい、高めあうために より開かれた経営シフトを構築しました。

イオンは、2010年までに名実ともに世界小売業のトップ10入りをめざす「グローバル10」を長期目標に掲げています。2003年度は、その実現に向けグローバル水準のグループ経営体制を盤石とするために、大きな2つの改革に着手しました。

よりスピーディ・より透明な経営体制へ——〈コーポレートガバナンス改革〉



イオンの中核会社であるイオン(株)は2003年5月、「委員会等設置会社」に移行しました。これは経営のスピードアップとともに、より客観的な視点を持ち、閉鎖性や不透明性・曖昧性を排除した経営がこれからのイオンには不可欠と確信して踏みきったものです。

内容的には経営の監督と執行を完全に分離し、それぞれの責任を公正に問うものといえるでしょう。「取締役」は経営の基本方針決定と監督に専念し、「執行役」はこれまで取締役会決議事項だった新株発行や人事などに至る大幅な権限を発揮して、より迅速な経営を進めていきます。執行役は取締役会とこれに連携する3委員会(監査・指名・報酬)から常にチェックされるため、経営の高い透

明性が保てます。またイオンは取締役会を構成する人材の社内/社外比を同率(各4名)、監査委員会では3名の委員すべてを社外取締役とし、商法の規定を上回る厳しい体制としています。

さらに、より多くの客観的な意見を活かしていくため、外部有識者の方々にご参加いただく、イオン独自の3つの「諮問委員会」を稼働させていきます。

事業のスピードアップに直結する明確な機能分担と、経営者は厳格に責任を問われる体制の自主構築。そして外部の声を積極的に収集する仕組みづくり。コーポレートガバナンス改革は“お客さまや株主にわかりやすい会社でありたい”と願う、イオンの決意表明にほかなりません。

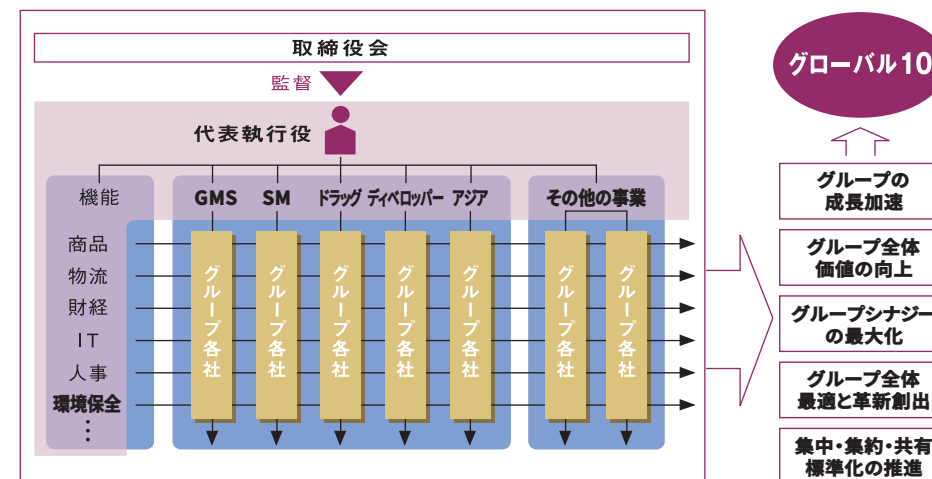
シナジー効果の最大化をめざして——〈グループマネジメント改革〉



グローバル10を見すえた、もうひとつの改革。それがイオンの総合力を引き出す、グループマネジメント改革です。これはGMS(General Merchandise Store)事業・SM(スーパーマーケット)事業など、イオンが展開する各事業でのベストプラクティスを追求するとともに、事業の枠を超えたコラボレーションを行いやすくして、イオンならではのグループシナジー創出を図るものです。

まずはグループ各社の内部に埋もれている成功事例やノウハウを広く共有化し、水平展開します。その上で複数の業態を組み合わせ、他に真似のできないエリア戦略を構築します。もちろんITや物流、総務・経理など集約できる部分は集約し、大幅な合理化でEDLP(エブリデー・ロープライス)をさらに推進させていきます。「グループ」であるイオンは、各社による多様性が発揮できる反

面、一歩まちがえれば非効率な集団に陥るという背反する特性を持っています。これを的確にマネジメントできる力が育まれたとき、放たれるエネルギーは膨大なものとなるはず。グループ各社の自主性を尊重しながら全体最適の視点で経営戦略を構築し、スケールメリットを相乗的に発展させていくその先に、イオンがめざす「お客さま満足」があるのです。



改革初年度の現況と課題

グループマネジメント改革が成果をあげるには、ガバナンスをオープンにしておく必要があります。2つの改革は、セットで進んでこそ真価を発揮するといえるでしょう。2003年度はIT・物流などグループインフラの構築が進むとともに、SM「マックスバリュ」の深夜営業に「ミニストップ」がコンビニ

エンスストアで磨いたノウハウが活かされるなど、共有化のたまものと評価できる事例も現れ始めています。これからもイオンは内外からの改善提案に深く耳を傾け、グループの総力を結集してさらなる飛躍を続けていきたいと考えています。

❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> ② グループ企業紹介/IR ③ イオン(株) ④ イオン(株)概要



タルボット

透明性・倫理性からみるイオンの「経営」

コンプライアンス(法令遵守)はもちろん、正しい行動の実践を通じて、イオンに関わるすべての方々に誠実であること。それがイオンで働く一人ひとりの基本認識です。私たちイオンピープルは、お客さまとともに“より開かれたイオン”を追求し、実現していきます。

国内外で共有するグループカルチャー

新しい個性の相互理解から、新たなチャンスを生み出します。



新パートナー マイカルとともに。

●「イオンらしさ」の相乗効果

2003年11月29日、ビブレ・サティなどを展開するマイカルがイオンに加わりました。これによりイオンのGMS(General Merchandise Store)・SM(スーパーマーケット)店舗数は全国で1,000店を超え、取り扱い商品の充実や合同セールの実施など、さらなるスケールメリットをご提供できる体制となりました。同時に、イオンの基本理念を通じたさまざまな取り組みを実践

していく場も、大きく広がりました。

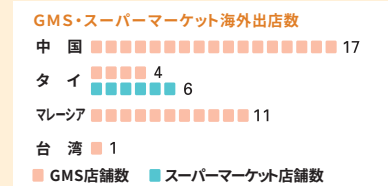
また、マイカル各社が積み重ねてきたノウハウやコーポレートカルチャーという新鮮な刺激を受け、従来からのイオン各社もあらためて「お客さま第一」の追求と実践を進めています。

マイカルの参加は、イオンがめざす理想へのまたとない追い風です。これを弾みに全社がよりオープンな姿勢で多角的に協力しあい、ときには競いあって切磋琢磨しながら、これまで以上に“お客さまから信頼されるイオン”を築いていきます。



「お客さま第一」を海外にも。

2003年度は台湾・マレーシア・中国でイオンの新しい店舗が開店。海外の店舗は計39店となりました。これら海外店舗では従業員に地元の方々を採用し、地域経済の活性化に貢献するとともに、それぞれの地域に根ざした展開ができるよう努めています。もちろんお客さまに安全・安心をお届けしていくことをはじめとした、イオン理念の実践は世界共通です。



採用人数(人)	
(広東ジャスコ) ジャスコ中山君悦広場店	390
(台湾イオン) ジャスコ新竹店	610
(ジャヤ・ジャスコストアーズ) ジャスコベルマスジャヤSC	379
(ジャヤ・ジャスコストアーズ) ジャスコメトロプリマSC	487

※SC(ショッピングセンター)

“継続は力。地道でも、地域に根づいた店づくりを続けていきたいですね”

株式会社マイカル
茨木サティ店長
堀田 茂

イオンに参加することになって、まず感じたのが「繰り返し行う」企業風土。以前のマイカルは目標を決めて「直線的なところがあったのですが、イオンは周囲の意見をいろいろ聞いては軌道修正を繰り返し、着実に進めていくんです。従業員教育も販売課長・グループ長・エキスパートさん・パートタイマーで、何度も何度も意識づけから行う。私自身もすでに三回、集合教育を受けました。成果としてミートリングでは回を重ねることに活発な、しかもお客さまの視点に立った意見が飛びかうようになりました。もちろん改善のスピードが格段に早まりました。今までも「お客さま第一」と思ってきたつもりでしたが、経営者から従業員まで、イオンによつてその切り口を整理され、方向づけされた感がありますね。現在この店は六百人が働き、日曜日には二、〇〇〇人が訪れる、ひとつの街のような存在です。そう考えると、地域との関わりはますます重要な意味を持つてきます。地道なことからも試行錯誤であっても、商品売るだけにとどまらない、地域に根づいた確固とした店にしていきたいと思っています。



このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。<http://www.aeon.info/> グループ企業紹介/R

お客さまと一緒に、開かれた経営のかたちを考え、実践しています。



第二期めは110名が活躍中。

●「お客さま副店長」制度

一般のお客さまに地域を代表する副店長としてジャスコ各店で実際に1年間ご勤務いただき、地域により密着した店づくりを推進する制度です。お客さまの立場から品揃えや商品・サービスの善し悪し、売場の改善点、接客などをチェックして、どんどんご提言いただくほか、店内を巡回してお客さまに声をおかけし、積極的なご意見の吸収に努めます。また従業員側からも会社への意見を引き出すなど、働きやすい職場づくりにも大いに活躍します。第二期となる2003年度は11店舗で本制度を新導入し、43店舗で実施。お客さまからの賛同の声も多く、全国で1,000名以上の方々からご応募いただき

ました。選考の結果、現在110名(第一期は89名)の方々にご勤務*いただいています。
※第二期「お客さま副店長」の任期は、2003年10月21日～2004年10月20日の1年間です。

「お客さま副店長」からの提案による改善例

※[]内は実施店

●鮮魚コーナーのセット販売商品「寒鰯鍋」は、地域のお客さまには郷土料理「どんがら汁」としておなじみの味。さっそくセットの表示を「どんがら汁(たら鍋)」と改めました。[ジャスコ山形南店]

●収納の限られた住居が多い土地柄、保管期間が長く、場所をとる五月人形に収納箱のサイズを写真とともに明示し、ご購入時の参考にしていただきました。[ジャスコ品川シーサイド店]

●豚ミンチ肉のバックは従来200g入りでしたが、トップバリュ「餃子の皮」は想定分量の表示が250g。そこでジャスコ商品部に連絡し、バックのほうを250g入りに規格変更してもらいました。[ジャスコ名古屋みなと店]

●店内の「ちびっ子広場」にあったブロック遊具は、破損しやすいプラスチック製だったので危険。これを撤去し、スポンジ素材のものに代えてもらいました。[ジャスコ日吉津店]



ご利用の実感を経営への提言に。

●お客さま株主

日頃イオンの店舗をご利用いただいている方々に株主として経営にご参加いただき、お客さま本位の店づくりに役立つ視点をさらに多角的なものにしたい。こうした考えからイオン各社では、株式売買単位(1単位)を従来の1,000株から100株へ引き下げを実施。お客さまに株主となっていただけの機会

を拡大しました。



株式売買単位が100株の企業一覧

- イオン(株)
- イオン九州(株)
- マックスバリュ北海道(株)
- マックスバリュ東北(株)
- マックスバリュ中部(株)
- マックスバリュ西日本(株)
- ミニストップ(株)
- (株)ダイヤモンドシティ
- イオンモール(株)
- イオンクレジットサービス(株)
- (株)イオンファンタジー



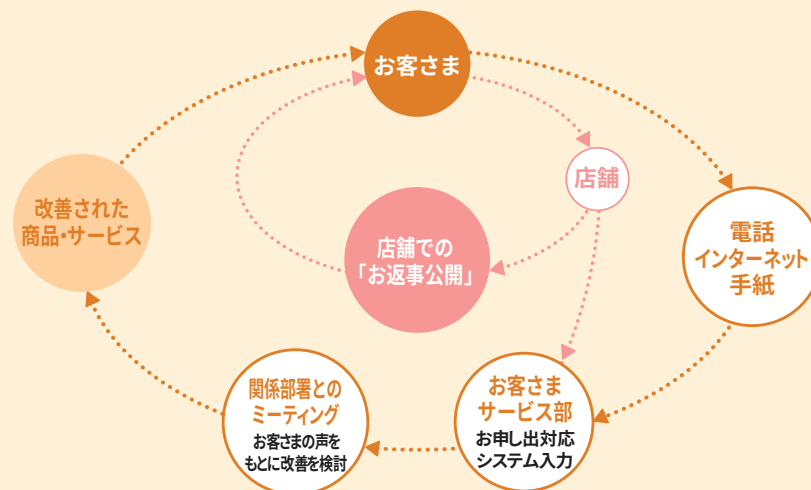
より多くのお客さまと従業員へ。

●ご意見の活用

ご要望やご提案、ときには率直なお叱りも。2003年度も電話や手紙、インターネット、あるいは店頭で直接お声がけいただくなど、お客さまからたくさんのご意見をいただきました。これらの内容と対応はデータベース化

して、イントラネットや従業員用の掲示板などに掲載し、活用しています。1人の声はより多くの方々を代表するものであり、1件のご提案はイオン全体に反映できるものと考えています。またショッピングセンター店頭では、お客さまの目にとまりやすい場所に「ご意見承りBOX」を設置。ご投函いただいたご意見には店長・副店長が直接お返事

を書いて、店内の「ご意見・お返事公開ボード」を使ってお客さまに公開しています。ご意見の数は、そのまま改善の余地とチャンスの数。お客さまの声は、イオンにとってかけがえのない資産でもあるのです。



“お客さまとイオン双方が見える立場から、さまざまな提案を。”

◎「お客さま副店長」という仕事は、何より自分の位置のバランスをとるのが難しいですね。お客さまの立場を忘れてしまったり、私たち3人がある意味はありませんから。私もこの仕事とイオンを通じて何か環境活動や社会貢献に参加できればと考えてようになりました。(山口さん)

◎「お客さま副店長」という仕事は、何より自分の位置のバランスをとるのが難しいですね。お客さまの立場を忘れてしまったり、私たち3人がある意味はありませんから。私もこの仕事とイオンを通じて何か環境活動や社会貢献に参加できればと考えてようになりました。(西尾さん)

◎これまで子ども用の手洗いに石けんをおくこと・カート置場を駐輪場にも設けることなどを改善していただきましたが、この仕事は慣れるにいたがいお店寄りに考えてしまいがち。想像以上に気を遣うというのが正直なところ。当店には「お客さま副店長」が全部で3人いますが、お互い協力しあって実施した「お客さまアンケート」では、お客さまが皆さん熱心に話してくださって、これならもっと何かできるのではと感激しました。

イオン(株)ジャスコ品川シーサイド店 お客さま副店長
西尾 妙子さん(右)
山口 美保里さん(左)



! このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
「お客さま副店長」制度 <http://www.aeon.info/> ☎ ホットプレス ☎ HOTPRESS一覧 ☞ Vol.193
お客さま株主 <http://www.aeon.info/aeoncorp/yutai/index.html>

従業員が安心して働ける職場づくり

働きやすい職場をつくり、モチベーションの向上を図っています。



職場環境の整備

より働きやすい職場を実現するには、労働時間などの各項目について確かな基準を設けることが大切です。そこでイオンでは、従業員の安全と健康を確保し、快適な職場づくりを推進するために、「安全衛生委員会」を店舗・事務所などの事業所単位で毎月1回開催。店長、統括マネージャー、従業員代表、労働組合代表などが参加し、職場環境の維持・改善に努めています。

社内教育制度

すべての従業員に平等な教育機会を提供するために、イオンでは2003年度より「イオンナビ」という社内教育システム

をスタートさせました。この「イオンナビ」は、成長する人にとって「教育は最大の福祉である」という創業以来の精神を反映させたもの。新規入社者からマネージャー・チーフクラスまで、平等な教育機会を得ることができるようになっています。従業員区分による教育機会の違いは一切ありません。

福利厚生

一人ひとりの従業員がストレスなく働けるよう、イオンでは作業環境や手順の改善、休憩室や分煙施設の設置などを積極的に進めています。また、福利厚生面を充実させることは、職場の活性化にもつながるとの考えから、

多彩な福利厚生を共済会「イオングッドライフクラブ」により運営。従業員の快適な暮らしを支援するために『イオンタイム』を発行し、各種相談窓口の案内、日常的な福利厚生サービスなどを紹介しています。さらにイオン健康保険組合では、従業員向けの情報誌『ヘルシーファミリー』を年4回発行。健康的なライフスタイルなどを提案し、従業員の健康づくりもサポートしています。



コミュニティ社員制度

継続成長する人材が、長期にわたり働き続けることができる企業環境の創造と、国籍・年齢・性別・従業員区分にとらわれず、能力と成果に貫かれた人事を実現するために、イオンでは2004年2月21日から「コミュニティ社員制度」を導入しました。この制度では、社員・パートタイマーといった区分を廃止。転居・転勤をせずに特定の地域で勤務する従業員を「コミュニティ社員」と位置づけ、能力と意欲により役割・仕事・処遇を決めています。従業員区分による役割や期待の違い、教育機会の違い、資格登用機会の違いを一切

なくしたことにより、パートタイムで入社した人もチャレンジを続けることで、中小型店の店長職に就くことが可能になりました。

●マックスバリュ東北(株)の取り組み

マックスバリュ東北(株)では、グループ各社に先駆けてパートタイマーを店舗の幹部に登用する制度を導入。実力主義に基づく公平な人事制度を設けています。2004年4月現在、パート店長3名、部門責任者約500名が活躍中です。よりお客さまに近い視点から地域のニーズに沿った商品やサービスを提供することで、お客さまに愛され親しまれるお店づくりを推進しています。

●障害者との共同事業を推進

障害者がふつうに働ける職場を作りたい。その理念を具現化するためにイオン(株)とアビリティーズ・ケアネット(株)が共同事業としてアビリティーズジャスコ(株)を設立し、1983年4月「スクラム」をスタート。小売店舗のチェーン展開を通じて障害者の方が自己の可能性に挑戦し、健常者とともに働ける新しい職場づくりを目的としています。「スクラム」は、2004年2月現在、宮城県と山形県に4店舗を展開中です。



“ 地元密着のパート店長だから、主婦のパワーが発揮できます。 ”



マックスバリュ東北(株) 営業本部秋田営業部
CSM県央地区長・將軍野店店長
籠谷 加代子 (こもりや・かよこ)

◎立場はパート、肩書きは店長。しかも新しいシステムだったので、最初は大変でした。今は自分の経営判断に対する答えがすぐに出るので、怖い反面、面白さも感じています。社員店長だと2年で転勤してしまい、地域に密着するのも難しいですが、転勤のないパート店長なら長い目で地域のことを考え、本当に必要なサービスを提供することができます。(籠谷)

◎パートで気楽に働きたい。そんな気持ちだったので、パート店長の話があつたとき、最初はお断りしました。でも「お飾り的な店長じゃない」「主婦ならではの地元密着力を発揮してほしい」と社長から勧められ、最終的にOKしました。男性店長では難しい生の声を、お客さまと同じ目線で語りあいがら入手できる点が主婦であり母であるパート店長の強みだと思います。(相馬)



マックスバリュ東北(株) 営業本部秋田営業部
CSM県南地区長・中仙店店長
相馬 美津江

❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> ◎ イオン社会福祉基金
<http://www.aeon.info/> ◎ グループ企業紹介/IR ◎ アビリティーズジャスコ(株)
<http://www.aeon.info/> ◎ グループ企業紹介/IR ◎ マックスバリュ東北(株)

地域と生きるSC (ショッピングセンター) へ

少しでも環境負荷を軽減し、地域へ貢献できる出店に努めています。

2003年度、新しいイオンのSC (ショッピングセンター) が計20カ所の街で誕生しました。新規出店の際にイオンが配慮しているポイントを、2003年12月に群馬県でオープンしたイオン太田SCを例にとってご説明します。



出店すること自体で、環境に負荷を与える側面もあります。

➡ イオンでは、新たに出店する店舗の周囲で、地域のお客さまとともに植樹活動を行っています。

イオン太田SCではこの地に自生するシラカシやタブノキなど54種・2万本の木を、市内の幼稚園など48団体(3,500名)にご参加いただいて植樹。敷地内の調整池も、自然の生態系を育むビオトープとしています。



交通量の増大にそなえ、渋滞対策に気を配りました。

➡ イオン太田SCではお客さま用だけで3,500台の駐車場を確保。

さらに敷地内に外周道路を設け、周囲の一般道路が渋滞しないよう配慮しています。地域の行政等にもご協力いただき、進入用の左折レーンや敷地内のバス停設置なども実現できました。



地域の広場としてご活用ください。

➡ 大型SCは、地域コミュニティの場としても活躍できます。

イオン太田SC内には日・祝日も利用できる行政センターやボランティア情報などが集まるNPOセンター、消費生活センターがあり、ご好評です。モール中央(屋内)に郵便ポストも新設されました。



合言葉は「ゼロ・エミッションSC」。

➡ 廃棄物削減・グリーン調達にも、全店あげて取り組みます。

廃棄物は各自が計量・登録してからでないと廃棄できないシステムを導入し、減量化の意識づけと分別を徹底させています。飲食店から出る生ゴミは肥料化(地域業者に委託)されます。またグリーン資材活用はもちろん、1階床部にはCD(コンパクトディスク)からリサイクルしたタイルを新採用しています。



地元経済を活性化するために。

➡ イオン太田SCの店舗構成は、地元のお店・ナショナルブランド・地域初進出のお店を1/3ずつ。

それがイオンの指標です。ジャスコのほか130を超える専門店からなるイオン太田SCでは、北関東(群馬・栃木・茨城)からのテナントが約30%、県内初出店テナントが約60%。地域経済活性化のお手伝いができればと考えています。



地域の中で、安定した雇用が創出できます。

➡ 毎月100万人前後のお客さまが訪れるイオン太田SCは、ながら太田市に出現した新しい街。

パート・アルバイトを含め約2,400人の従業員が働いていますが、うち75%にあたる約1,800人が地元からの雇用です。



“ 地域のために、地域とともに、
小さなことからでも少しずつ。 ”

出店にあたっては地元の区長さんたちや行政と緒に、毎月定例の説明・検討会を重ねました。工事の説明と同時にお客さまの要望も伺い、公共性の高い都心型モールを…と企画されたのが「イオン太田SC」です。調整池をビオトープにしたのもその席で生まれたアイデアですが、あそこには早くもカモが住みついて子どもを産みました。実は、休憩時間にその様子を見に行くのが楽しみで、ホールは民間施設としておそらく全国で初めて確定申告の会場になりました。お客さまだけでなく、税務署としても臨時の会場設営や誘導員のコストが不要になると、メリットが多かったようです。託児所や婦人服売場の横に設けた授乳・おむつがえができるコーナーなどもご好評です。先日は東京で下宿中の若者がいつも帰省を渋っていたのに、「ここができたから帰ってみたい」と言ってきたなんていうお声までいただきました。

ひとつのモールには、地域の生活スタイルを変えていく可能性すらありますね。イオン太田SCがその責任を果たしていくと同時に、用を足すだけにとどまらない場所として地域に貢献できるよう、小さいことからでも新しい取り組みを続けていこうと決めています。

イオンモール(株) イオン太田ショッピングセンター
ゼネラルマネージャー
下岸 春雄



! このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/aeoncorp/news/200310/1030-1.html>
<http://www.aeon-mall.net> ㊟ イオン太田ショッピングセンター



農産物データ管理システムに基づき、携帯電話でチンゲンサイの生育状況を報告する生産農家（福岡県）。

商品・サービスを通してみるイオンと「社会」

ここ数年、暮らしの「安全」「安心」が、これまでにない厳しさを問われています。イオンはPB(プライベートブランド)商品の「トップバリュ」をはじめすべての商品とサービスについて、お客さまと社会に誠実であること、喜んでいただけることを取り扱いの尺度としています。

PB(プライベートブランド)商品への取り組み

お客さまの願いから生まれ、イオンのこだわりで育てるもの。

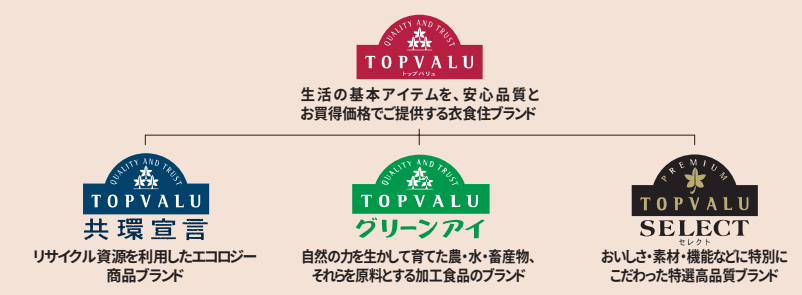


安全・安心・正直にこだわり続けます。

●イオンならではのPB「トップバリュ」食料品はもちろん衣料品・家庭用品など、衣・食・住のすべてに「安心」を。お客さま共通の願いにお応えする、イオンならではのPB(プライベートブランド)商品がトップバリュ。現在は基本アイテムをそろえた「トップバリュ」に3つのサブブランドを加えた計4ジャンル、約1,700アイテムを展開しています。すべてのトップバリュ商品はイオンからお客さまへの約束ともいえる「5つのこだわり」を遵守し、品質・価格のみならず健康・環境面でもご満足いただけるよう、徹底した管理のもとで生産されています。

1.畜産物での取り組み例

BSEや鳥インフルエンザが大きな社会不安を引き起こした2003年。イオンが常に続けてきた、扱うすべての畜産物について安全・安心をより高める努力が、お客さまをはじめ各方面から高い評価を



トップバリュ 5つのこだわり

- 1 お客さまの声を商品に生かします。
お客さまのモニター等により、品質・機能を吟味しています。
- 2 安全と環境に配慮した安心な商品をお届けします。
添加物使用の削減や環境負荷の少ない原材料・包材を使用しています。
- 3 必要な情報をわかりやすく表示します。
遺伝子組換えや栄養成分をはっきりと表示します。
- 4 お買得価格でご提供します。
ナショナルブランドより、お求めやすい価格に設定します。
- 5 お客さまの満足をお約束します。
万が一、ご満足いただけない場合は、返金・お取り替えをします。

いただきました。トップバリュ グリーンアイの「タスマニアビーフ」は、イオンが運営するフィードロット社(オーストラリア)の牧場で、徹底した衛生管理と品質検査のもとに育てられます。肉骨粉や遺伝子組換え飼料、抗生物質、成長ホルモンをいっさい与えず「ナチュラルで

高品質」そして何より「安心できること」にこだわりながら育てられる、日本人好みの肉質。20年以上にわたって続けられてきたその取り組みは、食の安全・安心に対するイオンの基本姿勢を如実に表すものとして、お客さまに広く親しまれています。

“おいしさという商品価値で、次代の「農」を支えていきたい。”

イオン(株) SSM商品本部
農産商品開発部長
高橋 博

私が担当する農産物は企業でなく、個々の農家で生産されます。いくら安全に配慮といっても個人では管理しきれない要素もあるわけで、イオンとしてはトレーサビリティだけで満足しているわけにはいきません。お客さまに信頼され続けていくためには、また新たな方策を実現していかなければ、たとえばいくつかの自治体も取り組み始めていることです。生産地域における「農」のビジョン、継続性を持ったしくみの支援があげられると思います。「農」は地域を支える基盤だから、地域全体でその確かさ、つまり安全をきちんと支えていく。それは地域のブランド化へつながり、子どもたちに継承できる次代の「農」の姿も見えてくるんですよ。トップバリュの認知度は、かなり上がっています。とはいえグリーンアイは食品です。何より味と成分で訴求できなければ、イオンの「安心」は対症療法より予防が基本ですから、商品価値をこの先どう見出し、いくが当面の課題ですね。品質をおいしさや健康で語れるものになれば、社会的な提起もできる。見た目より、確かさで選びたいだと思います。



❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> ➡ トップバリュ

PB (プライベートブランド) 商品への取り組み

人の英知と想いをこめて、自然の恵みをお届けします。



2.農産物での取り組み例

自然の力を最大限に活用して生産され、おいしくて栄養があり、しかも地球環境に優しい農産物。これが「トップバリュグリーンアイ」のコンセプトです。

2004年4月現在、生産をお願いしている契約農家数は全国で約3,500軒。これだけ多くの生産者が点在する中で統一的な安全・安心を確保するために、イオンでは生鮮の野菜・果物における食の安全危害最小化をめざす「イオン農産物取引

先様品質管理基準」、および生産者の方々が参加・維持しやすい入力方法・コストにも配慮した「農産物データ管理システム」を導入しています。後者は農薬や肥料の使用状況・生育レポートなどを生産者が直接パソコンや携帯電話、FAXなどで入力・送信でき、それらの情報が店頭やお客さまのご自宅から確認できるシステムです。さらに仕組み全体の透明性・信頼性を守るため、第三者による監査を実施しています。

今後は商品だけでなく、食べる人の健康
やおいしく食べるレシピといった食生
活にかかわる提案まで含めて、安全・安
心をご提供していきたいと考えています。



3.表示・包装での取り組み例

食品原料における遺伝子組換えやアレルギー成分に関する表示についても、積極的な自主検査と情報公開を実施しています。

イオンが遺伝子組換え原材料に関する
情報表示を始めたのは、改正JAS法の指
定(2001年)に先駆ける
1999年。現在は対象とな
るすべてのトップバリュ
商品で、パッケージに明快



なマーク表示を行っているほか、原材料の詳細も一括表示欄とは別の専用欄を設けて記載しています。

アレルギーの原因となる食材については、対象の全商品で抜き取り検査を実施。今

後追加される商品も、販売前の検査を必

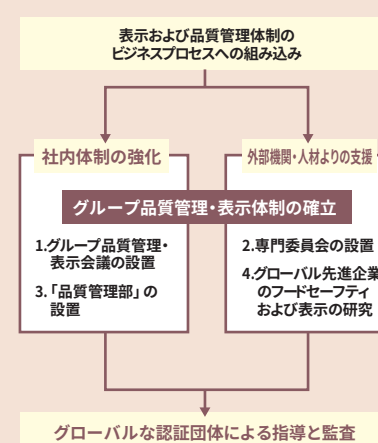
●名称:納豆●原材料:納豆(丸大豆(中国)、納豆菌)、添付調味(大豆、小麦を含む)、しょうゆ(本醸造)(小麦、大豆を含む)、発酵調味(かつお、煮干し)(大豆を含む)、水飴、調味料(アミノ酸等)、酒精、酸味料、酵母エキス、酒精、酸味料、香辛料、着色料(うこん、β-カロテン)、増2個 ●賞味期限:精糖・酸味料に記載 ●保存方法:冷蔵庫(10℃以下)で保●販売先:イオン株式会社 J547 千葉県千葉市美浜区中環1-1-1

- 原材料に「小麦、大豆」の成分が含まれています。
- 納豆（大豆）：遺伝子組換えではありません。

須とする体制が確立されています。表示面でも小麦・そばなど表示義務のある5品目はもちろん、えび・大豆・ゼラチンなど19種の表示推奨品目すべてについて、やはりパッケージの専用欄にわかりやすく記載しています。

包装では、ダイオキシンの発生源となる塩化ビニールはいっさい使用しないほか今年度からは新たな取り組みとしてサツマイモやトウモロコシを原料とする生分解性プラスチックで作ったポリ袋[※]を導入しました。また収穫から陳列までを一貫して、しかも繰り返し使用できるリターナブルコンテナを多用することで、包装自体の省略による廃棄物の削減にも努めています。

イオンの表示および品質管理体制



※見た目は透明なポリ袋ですが、そのまま生ゴミと同じ処分ができ、埋めれば土に還る新素材です。下欄で紹介している江戸川高校での授業でも、この素材が取り上げられました。

“安全の先の、おいしさを
追求していく時代だと思います。”

江戸時代から十何代続く農業の後継者として人一倍の責任を感じます。現在、両親と妻と私の計四人で冬はニンジン、夏はスイカ、秋はトマトを作っています。以前は自分の作ったものがここに届けられるのかわからなかったのですがJAを通じてトップバリュグリーンアイに参加し、イオンの売場に私の作物として並ぶのを見て大いにやる気がわいてきたものです。人の口に入るものを作っている者が食の安全に気をつかうのは当然です。これからさらにはその先のおいしさを追求していく時代だと思います。

子供たちの野菜離れと云われますが、それは本当においておいしい野菜と出会う機会がないからではないでしょうか。そのため地域の小学校で食育の試みも始めました。農作物の大切さを知ると、田や畑に空き缶を捨てなくなるなど、子供たちの意識に変化が現れてきて、期待が持てます。

おいしい農業が明日を作る、そんな気概でイオンとともに取り組んでいきたいと思っています。



トップバリュグリーンアイ生産農家
(千葉県富里市)
篠原弘安さん

❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> (→) トップバリュ (→) グリーンアイ

“ 高校の家庭科の授業で、
「トップバリュ グリーンアイ」が取り上げられました。”

●今まで食べ物を買うとき、賞味期限しき気になかったけど、これからは環境マークや無農薬表示にも気をつけて買いたいと思います。(菅田あずささん)

●農作物に対する意識が変わりました。環境を考えることは農作物を考えることであり、農作物を考えることは環境を考えることである。(江藤隼斗さん)

●トップバリュ商品はよく目にしていただくと、今日の話を聞いて、さらに関心を持ちました。おいしだけじゃなく、安全であることが大切なんだ。(飯島 誠さん)

●食べ物に関しては企業の利益ばかり考えず、後々のこと、食べる人のことを第1に考えることが大切だと感じました。その点、わざわざ私たちの高校まで足を運んで、お話をしてくれるイオンさんは凄いです。本気で頑張っているんだとお世辞ではなく思いました。(永井夕貴さん)

●生きるために食べるのに、食べたことで害になるなんて。そんな食品は絶対に許せないと思った。(余 智成さん)

●グリーンアイのこだわりと環境への取り組みがよく分かりました。とくに、サツマイモから作ったという土にもどるポリ袋には感動！農業のこと、食べ物のこと、環境のこと、将来のこと、いろいろな考えさせられる授業でした。坂本佳菜江さん

●家の近くにイオン♡ヤスコがあつてよく行くけど、食の安全について、これほど熱心に取り組んでいるお店とは思わなかった。(松沼弘隆さん)

●田舎に住んで、自分で野菜とか作りたい気分になりました。(伊藤香織さん)

2004年3月、東京都立江戸川高校
「食の安全」をテーマとした授業



2004年3月、東京都立江戸川高校で「食の安全」をテーマとした授業が行われました。生徒たちの感想の一部をご紹介します。

! このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/>

① トップバリュ ② アレルギー・遺伝子組換えについて

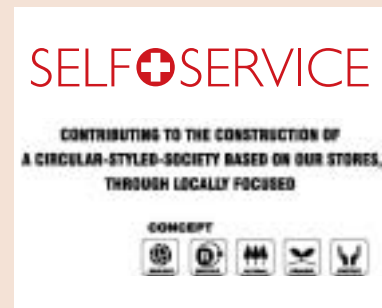
店頭と社会貢献との新たな接点

商品を選ぶこと・使うことと社会貢献を、少しずつでも結びつけていきます。



.....
衣料の回収リサイクルを始めました。
.....

●SELF+SERVICE (セルフサービス)



“環境に配慮しながらおしゃれ感覚も楽しめる”イオンのエコロジーショップ、SELF+SERVICE。今年度は10店のジャスコでオープンし、34店舗に広がりました。2003年度は店頭で、新たなリサイクルシステムを始めました。それはアパレル業界の課題とされてきた、衣料ゴミの削減を目的としたもの。SELF+SERVICEで販売したエコメイトマーク^{※1}商品が不要になったら店頭で回収し、故繊維業者とお客さまも含めた三者によるコラボレーションで年間100万トンにもなる衣料ゴミを少しでも減らし、能動的に資源循環の環をつくっていかうとするシステムです。

故繊維業者については国内最大手であるナカノ(株)と協働し、より多くの衣料に対応できる体制としました。スタートした



2003年10月20日^{※2}以来、年度末までの回収量は約3,000着。これをもっと増やしていくためにSELF+SERVICEでは、回収対象をエコメイト



マーク以外の繊維製品にも広げていこうと考えています。

特に、回収した衣料のうちポリエステル製品は、(株)帝人ファイバーがもつケミカルリサイクル技術^{※3}を活用し、回収品を原料とした新たな商品開発への取り組みを検討中です。加えてこの春からは、オーガニックコットンや自然染料のフェアトレード商品を販売するフェアトレードカンパニー(株)との新たな連携も始動予定。リサイクル材の商品を扱うだけでなく、商品そのものがリサイクルできるショッ

プへ。そして、お客さま自身がより広く社会貢献に参加できる場へ。それがSELF+SERVICEの目標です。



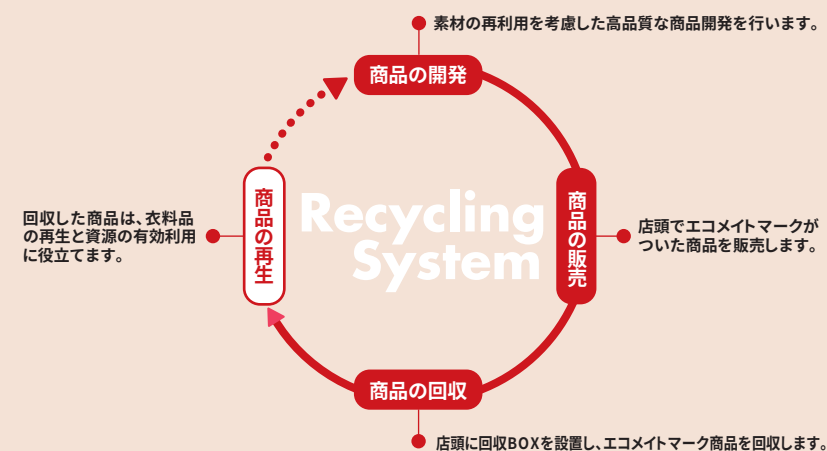
※1 (社)日本アパレル産業協会が「リサイクル配慮設計商品」と認定した衣料につけられるマーク。衣料の組成別分別回収を容易にします。

※2 数字に「ひと回りふた回り」の意味をかけた「リサイクルの日」です。

※3 回収品から多様な原料が得られるため、新たな石油消費を抑えられるリサイクル技術です。



SELF+SERVICE リサイクルシステム



.....
お客さまからチャンスをいただきました。
.....

●フェアトレード・コーヒー

「フェアトレードという消費者運動があります。これを活用してイオンの店頭を、より多くの人が気軽に国際貢献に参加できる場にしてもらえませんか」というご要望を、イオン21キャンペーン(26ページ参照)でいただきました。

フェアトレードとは、商品や原料を社会的・経済的に恵まれない地域から労働に見合う価格で継続的に買い入れ、生産者の自立支援に役立てようとする取り組みのこと。欧米ではさまざまな企業が実施しています。

支援の仕組みや生産地の現地調査などの結果、(株)ユニカフェ等のご協力により2003年9月からインドネシア産の2種類のフェアトレード・コーヒー(粉)をイオンの店頭に並べることができました。その



「イオンという企業が日本から視察にきた」ことを報道する現地の新聞。



インドネシア/リントン オーガニックコーヒー プロデューサーズグループの皆さん



後マスコミに着目されたこともあって、フェアトレード・コーヒーは全国からお問い合わせをいただきました。現在はイオンのオンラインショップでもご購入いただけるようになっています。



(株)ユニカフェでは国際NPO「トランスフェア」が認定した原料を使用。フェアトレード・コーヒーには同NPOのマーク(上写真)が表示されています。



「パートナーシップをより深めたい」とのお手紙を、現地生産者の方から日本語でいただきました。

“ 難しいだけに、ぜひ続けていきたい取り組みです。 ”

フェアトレード・コーヒーへの取り組みはイオン21キャンペーンでお客さまからご提案いただいたことがきっかけでした。私たちも概念は理解していたつもりでしたが、進めるほどに奥の深いものだと思惑しました。コーヒー豆の購入を通じて生産者の方々のお役に立てるだけでなく、商品それ自体がご購入いただくお客さまにとって価値あるものでなければなりません。また生産者の方々に日本のお客さまのご要望をお伝えするとともに、お客さまにはご購入いただくことで生産者の方々の生活が改善していくことを説明する責任も生じるのです。NGOの皆さんや焙煎メーカーの方々などの協力により販売を開始できましたがこの取り組みはこれから永く継続していくことが大切なのだと考えています。イオンにご期待いただいたお客さまの声にお応えすることができ、しかも産地の方々の生活改善に貢献できるという素晴らしい取り組みができてよかったと思います。今後はぜひ、他の商品にも広げていきたいですね。(仲谷)

イオン(株)商品戦略・トップバリュ本部
トップバリュグループマネージャー
仲谷 正員

イオン(株)トップバリュ本部
商品企画グループ SSM担当
宮坂 文人



! このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> (イ) おすすめ特集「イオンのブレンドコーヒー」

イオンサプライヤーCoC（取引行動規範）の制定と推進

イオンは製造工程までの説明責任を果たしていきます。



制定の主旨



近年、インターネットを代表としたコミュニケーション手段が発達し、世界的に市民社会が成熟した中で、グローバルな活動をする企業の行動は、働く人びと、地域、株主の利益を大きく左右するようになりました。そうした中でイオンが、お客さまにお届けするすべての商品は、安全で高品質であることだけでなく、これからはその商品の製造工程での説明責任を果たしていくことが求められています。

それはお客さまに、その商品が安くて品質が良いというだけでなく、その工場が

労働者の人権、労働環境、労働条件や環境などにおいて、その国や地域の法令や規制を遵守して生産していることをいつでも説明できるという、「品質管理だけでなく、製造工程まで責任を持つ」ことの社会説明責任を果たそうと考えたからです。まずはイオンの自社ブランド商品である「トップバリュ」の製造委託先に対して、イオンサプライヤーCoCの遵守を要請することから進めています。

イオンサプライヤーCoC（取引行動規範）は特別なことを要請しているのではなく、その国や地域の法律や規制を遵守することを基本に求めています。

イオンで販売する商品を生産している労働者たちが、環境に配慮した工場で、人権を尊重され、安全で衛生的な労働環境の中で、適切な賃金を保証されること。さらに商品の品質が向上し、イオンとお取引先両者の予期せぬリスクを回避して、

よりスムーズにグローバルな商品調達を可能にすることなどをめざしています。

●進捗

2003年5月に「トップバリュ」の製造委託先約400社に説明会を実施し、イオンサプライヤーCoCの遵守と、製造委託先工場の確認、遵守の宣言書をイオンにいただきました。同7月には中国の深圳、上海、青島、タイのバンコクで、実際の「トップバリュ」の製造委託先工場の責任者への説明会を実施し、イオンサプライヤーCoCへの理解と遵守を要請しました。同9月からは、海外工場ヘインターネットですり質問書を送付、回答していただき、評価をお取引先と工場へ提示しました。そうすることで各工場の未達成部分を把握していただき、イオンによる監査、専門機関による監査の実施を始めています。

今後は国内の製造委託先工場の監査も実施していく予定です。

製造委託先工場（世界24カ国・約250工場）



イオンサプライヤーCoC（取引行動規範）要求内容

製造・調達を行う国において法的に定められている社会的責任標準に適合すること

法令遵守

その国の法律・規制に適合する

1. 児童労働 …… 違法な児童労働は許されない
2. 強制労働 …… 強制・囚人・拘束労働は許されない
3. 安全衛生および健康 …… 安全で健康な職場を提供すること
4. 結社の自由および団体交渉の権利 …… 従業員の権利を尊重すること
5. 差別 …… 生まれた背景、信条で差別してはならない
6. 懲罰 …… 従業員に過酷な懲罰を課してはならない
7. 労働時間 …… 労働時間に関する法令を遵守
8. 賃金および福利厚生 …… 賃金および福利厚生に関する法令の遵守
9. 経営責任 …… イオンサプライヤーCoCの遵守宣言をすること
10. 環境 …… 環境汚染・破壊防止に取り組むこと
11. 商取引 …… 地域の商取引に関する法令を遵守すること
12. 認証・監査・監視（モニタリング） …… イオンサプライヤーCoCの認証・監査・監視を受けること
13. 贈答禁止 …… イオンとサプライヤーの贈答禁止

●監査・モニタリングの体制

どんなに素晴らしい要求事項を掲げて、遵守を要請しても、それが実行され、改善されているかをきちんと確認するための仕組みが必要です。

イオンサプライヤーCoCは要求事項をただ提示するだけでなく、イオンとサプ

ライヤー両者が製造委託先工場にイオンサプライヤーCoCを遵守できるように監査・モニタリングを通じて改善、指導していきます。

●目標

イオンとお取引先が一体となって、「トップバリュ」の製造委託先工場の人権、労働

環境、労働条件や環境に対して、企業の説明責任を果たしていくことができるよう、工場の労働環境などを改善していくことにより、イオンで販売している商品を購入していただくお客さまに「安全・安心・正直」を提供していきます。



イオンで販売しているグリーンアスパラの出荷作業



SWIFT社で働く皆さん

“イオンサプライヤーCoCに対して、タイのSWIFT社からメッセージが届きました。”

私たちは今回のCoCに関して、サプライヤー（供給者）およびベンダー（買い付け人）の適正な労働環境を監査するとしてイオンの取り組みに、深い感銘を覚えました。イオンの監査内容は、細かなところまでじつに良く配慮されています。その企業の姿勢と取り組みは、私たちの人権や労働環境だけでなく、公正な処遇と倫理的な環境保護対策を行うことの方性大切さを、私たちのような取引企業に対して非常にわかりやすく伝え、十分に納得できるものとなりました。

このサプライヤーCoCは、私たちの住む世界をやさしく見守り、より良い暮らしを実現する上で、直接的にも間接的にも大いに役立つことでしょう。イオンはビジネス界における世界的なリーダーのひとりとして、企業の倫理観を高める活動に大きな影響力を持っていると確信します。

The mission set out by the AEON to audit their suppliers and vendors on "CoC" greatly impressed all of us at the Swift Co., Ltd. The audit is very thorough and professional.

The corporate policy of AEON, the mission, and the auditing have created direction and awareness, not only on human right and working environment, but also on fair treatment to all as well as other ethical and environmental safe-guarding practices of the business entities that supply goods and services to AEON. The policy will directly and indirectly create a gentler and better world that we are all live in. As one of the leaders in the corporate world, AEON has a great impact in its call for ethical business practices.



CHAIRMAN
バイチャヨン・ウアサビークルさん(右)
MANAGING DIRECTOR
パファビー・スサヴィヴァットさん(左)

お客さま視点での活動

お寄せいただく声こそが、イオンを動かす貴重なエネルギーです。



お客さまがつくる理想のイオン

イオン21キャンペーン

「お客さま第一」を経営理念の柱とするイオンでは、常にお客さまとともに考え、行動し、“夢のある未来”を実現したいと考えています。このような目的を具現化するためにスタートしたのが、お客さまと従業員からの提案を募る「イオン21キャンペーン」。ジャスコからイオンへと社名変更した2001年に始まり、2003年度で3回目を迎えました。



第3回のキャンペーンテーマ“あったらいいな、こんな「お店」「サービス」「商品」。あったらいいな、こんな「イオン」”に寄せられた提案数は、お客さまから23,644件、従業員から120,685件。特にお客さまのご提案数は前回の2倍以上になり、関心の高さを改めて知ることができました。

これまでお寄せいただいたアイデアは、「フードアルチザン（食の匠）」や「お客さま副店長」制度（12ページ参照）などに次々と具体化されています。イオンに

とって、お客さまの毎日のくらしをより豊かにしていくことは、何よりも大切な使命。これからもイオンはお客さまの声にしっかりと耳を傾け、お客さまが理想とするイオンづくりを推進していきます。

●フードアルチザン(食の匠)

全国各地で郷土の味を守り続けている生産者の方々と連携し、その土地ならではのおいしさをイオンの店頭に並べて、地域の優れた食文化を継承してゆく。そんな主旨を持つ「フードアルチザン(食の匠)」の取り組みは、第1回イオン21キャンペーンに寄せられたお客さまの声がきっかけとなつて始まりました。2004年1月6日現在、厳しい審査を通過した商品は172品目。味噌・醤油から、お茶、納豆、こんにゃくなどの逸品が、多くのお客さまに喜ばれています。

さらにこの取り組みは、農林水産省総合食糧局主催の地域食品認証基準調

整委員会からも高く評価され、フード
アルチザン事務局のリーダーが同委
員会の委員として活動するようにな
りました。もちろん今後も拡大してい
く予定で、地域経済のさらなる発展に
貢献したいと思っています。



●持ち帰り試着サービス

2003年5月から、高齢者や障害者の方々に安心してご試着いただける「持ち帰り試着サービス」を、ジャスコ7店舗で試験的に導入しています。このサービスも

イオン21キャンペーンに寄せられたお客さま提案が具現化されたもの。今後は、地域の社会福祉団体やボランティアグループなどへの告知活動を強化し、より多くの方々にご利用いただける環境づくりをめざします。



●託児所

ときには子どもから解放されて、ゆっくりとショッピングを楽しみたい。そんなお母さまたちの声に応えて、一部の店舗で託児所の設置を進めています。2004年3月現在、29店舗に設置されています。

CSオールスターズ

従業員からの推薦と、お客さまからの
お褒めの言葉によって選ばれるのがイ
オンの「CSオールスターズ」。これは「お
客さま第一」を実践した従業員に与え
られる称号で、
2003年度は
1,948名が表彰
を受けました。



ネットショッピングの充実

通販サイトでトップクラスの利用者数を誇る「aeonshop.com」が、さらに使いやすくなりリニューアルされました。新コンテンツには、CMで扱った商品の詳細を伝えるコーナーや、対話形式で問い合わせ事項を解決する機能などを搭載。さらに利便性を高めています。



“ 幅広い世代に“ 日本の食文化 ”を
伝えていければ、と思うんです。 ”

しまいました。日本だけの食文化である「コンヤクづくり」は危機的状況にあるんですよ。たとえば「お袋の味」が喜ばれるのは、それが心をこめてつくられるその家独自の味だからでしょう。いくらモノに自信があっても、この心をこめた違いを他人に伝えるのは難しいんです。その点、フードアルチザンのような取り組みで大手が扱ってくれると、私が「ウチのコンヤクはいいですよ」なんて言って回るより説得力がある。実際、イオンに入るようになって問い合わせが急増しました。店で開催する手づくりコンヤク教室では三年で一五〇〇人くらい、幅広い世代の方々と接しました。こうした方々に、コンヤクの歴史や文化を伝えていくのが今後の課題と思っています。商品価値が知られているかどうかで価格への評価は変わりますからね。お客さまに「また食べたくなく」と寄っていただけのが、いけばん嬉しいんですよ。

フードアルチザン(食の匠)
群馬やまふぐ本舗 手造り蒟蒻工房 代表
佐々木 信也 さん



コンニャクの
本場といわ
れる下仁田
でも機械化
が進み、手づく

❗このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。

<http://www.aeon.info/> ㊦ イオン21キャンペーン
<http://www.aeon.info/> ㊦ フードアルチザン(食の匠)

“時にはお客さまの選択に異をとなえることも、
大切なサービスだと思います。”

場に立つて接客すること。それが私たちの基本です。一応、接客マニュアルはありますが、そこには、「お客さま第一」という基本的な精神が書かれているだけで、細かな接客については個々のオリジナリティが大切とされています。

私の場合は、とにかくお客さまに合うものを探し、オススメするのが基本。ですから、お客さまが「ちよっと大きいけど、まあいいや」と購入しようとしたときに、それをお止める場合もあります。特にランニングシューズなど、サイズが合わない足を痛めることにもなりかねませんから…。

そんな対応を気に入っていたとき、神奈川の養野店で知りあったお客さまが、私が千葉のイオン成田店へ移った後も、わざわざお店まで来てくださったということがありました。たまたま近くへ来たから…ということでしたが、事前に電話を入れて私が出勤していることを確認してから来店してくれたんです。

あの時ほどこの仕事をやっていて良かったと思ったことはありませんでした。

(株)メガスポーツ 営業本部 熊谷・太田担当
ディストリクトマネージャー
實 成 信 (じつなり・まこと)



 このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> (→) オンラインショッピング
<http://www.aeon.info/> (→) グループ企業紹介/IR (→) (株)メガスポーツ

ユニバーサルデザイン化の推進

すべてのお客さまにとって、便利で快適なイオンであるために。

イオンは、よりよい公共の場でもありたいと願い、「誰もが便利で快適に利用できる」ユニバーサルデザインの考え方を積極的に取り入れています。そのためにバリアフリー化はもちろん、サービスの基本姿勢や従業員のスキルアップなどを図っています。

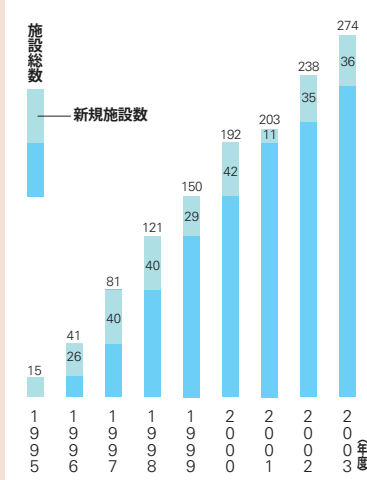
1. 店舗・設備でできること



ハートビル法[※]による認定を、2003年度は36店舗で取得。イオン独自の「イオンハートビル設計基準」も作成し、よりきめ細やかに配慮した店づくりを行っています。

※ご高齢の方・体の不自由な方が利用しやすい施設の促進をめざし、その建築基準等を示した法律。1994年に施行されました。

ハートビル法認定施設の推移



■このページの写真はダイヤモンドシティ・ハナ(京都市)で撮影しました。



貸出し用の車イスや、車イスに取り付けられるカートを提供しています。



通路幅やサービスカウンターの高さも、車イスでのご利用を考慮しています。



「混雑時は車イスだと利用しづらい」とのご意見から生まれた、優先エレベーター。



介添えがほしい時などに、従業員を直接呼び出せる店舗入口のインターホン。



床の段差はできるかぎり廃し、触感のやさしいカーペットを多用しています。



車椅子使用者用駐車場・歩行者通路は、ドライバーへ呼びかけの意味もこめて大きくハッキリと表示しています。

2. 理解と認識でできること

●身体障害者補助犬法への取り組み

2003年10月、すべての不特定かつ多数の者が利用する施設で盲導犬などの補助犬受け入れを義務づける「身体障害者補助犬法」が完全施行。イオンでは施行に先立つ2002年9月から、全店でその環境整備に着手しています。盲導犬育成・普及活動を支援する「盲導犬育成支援募金(1989年開始)」や「もっと知ろう身体障害者補助犬(盲導犬)キャンペーン(全国盲導犬施設連合会主催)」は、2003年度は37店舗で開催しました。



右のポスターは従業員教育用に活用しています。

提供
特定非営利活動法人
日本介助犬アカデミー



厚生労働省ポスター

3. 一人ひとりができること

●従業員によるサポート

2003年12月にオープンしたイオン太田ショッピングセンター(16ページ参照)では、インフォメーションカウンターに勤めるスタッフ全員が手話の講習を受講しました。ほかの店舗でも多くの従業員が、車イスの扱い方や視覚障害を持つお客さまの適切な介添え方法を学ぶなど、いわばソフト面のスキル向上に取り組んでいます。

“身障者用の駐車場が、その目的を果たせるように。”

当SCでは入口近くに二〇台分の身障者用駐車場を設けていますが、ここに一般の方が駐車し、本来の目的を果たせないことがあります。車イスのお客さまが、自動車の乗り降りにどれだけの面積を必要とするのか、またその大変さなどが、まだまだ一般のお客さまには理解されていないんですね。身障者用の駐車場だと分かっているのに、「ちょっとくらいなら大丈夫」という軽い気持ちで駐車してしまうんです。そこで今年、「私は身障者用駐車場に停めません」というキャンペーンを展開することにしました。この運動は、男鹿市の渡辺幸哉さんという方が行っている身障者用駐車場の普及活動を、当SCが応援していくというものです。キャンペーンを通して車イス利用者と一般の方々が触れあえる場をつくり、身障者用駐車場の大切さをアピールするのが狙いです。具体的には、お店側がイベント開催の場を提供したり、いろいろな面で支援などを行っていく予定です。お互いの理解が深まることで、身障者用駐車場の有効利用が進むことを願っています。

イオンモール(株)イオン秋田ショッピングセンター
ゼネラルマネージャー
藤原 雄三



！このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> ① イオンの環境・社会貢献 ② すべてのお客さまが快適にお買い物できる店をつくること
<http://www.diamondcity.co.jp> ③ 新規計画 ④ ニュースリリース(1月14日付)

！このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> ① ホットプレス ② HOTPRESS一覧 ③ Vol.219
<http://www.aeon-mall.net> ④ イオン秋田ショッピングセンター



店舗から地域・地球へとつながるイオンと「環境」

国内外に広がる、イオンの店舗。これらはすべて、イオンにとって重要なビジネス拠点です。同時にその一つひとつが、お客さまや地域の方々と一緒に「できること」を探しあい、伝えあい、行動していくための大切な拠りどころとなっています。

植樹を通じたコミュニティづくり

2003年度は60カ所・31万本を新たに植樹。一緒に、もっと植えていきましょう。

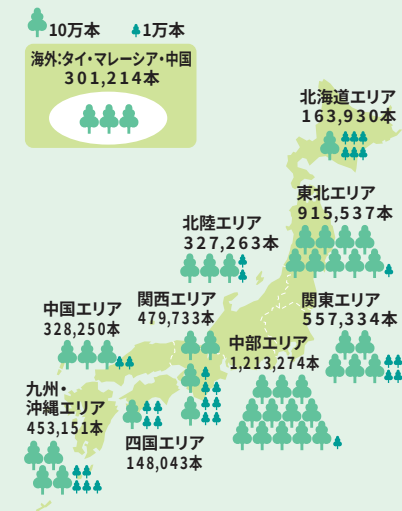


将来への夢・地域への想いを育みます。

●イオン ふるさとの森づくり

イオンではSC(ショッピングセンター)の敷地内を中心に、数多くの苗木をお客さまとともに植える活動を長年にわたって続けています。これは新たなSCが緑あふれる店舗となり、地域の環境にとけこ

イオン ふるさとの森づくりマップ (2004年2月20日現在)



んだコミュニティの場に成長すること、そして緑を育む心が子どもたちをはじめ世界中に広がることをめざしたものです。樹種の選定等は活動当初から横浜国立大学・宮脇昭名誉教授にご指導をお願いし、その土地本来の樹木を数十種類もとりまぜて成長を競い合わせる方針を取り入れています。

国内はもとより、海外のイオン店舗(ちなみに植樹活動のスタートは1991年、マレーシアのジャヤ・ジャスコストアーズ マラッカ店でした)や物流センターでも行い、これまでに411カ所・約489万本が植樹されています。最近は新店の建設中から「植樹はいつ行うんですか」と参加希望の問い合わせをいただく機会も増えました。

また毎年4月下旬の「みどりの週間」を中心に、植樹した苗木の成長ぶりを確かめながら剪定や除草などの手入れを行う「育樹祭」を、やはり地域の方々とともに各地の店舗で開催しています。2003年度も125カ所で行い、いずれも多くの方々にご参加いただきました。

このほかにもイオンでは、さまざまなかたち・さまざまな地域で植樹・森林再生を通じた環境保全に力を注いでいます(本冊子の40ページや、下記のホームページもぜひご参照ください)。今後は店舗や施設にとどまらず、より広い視野で地域の森づくり・環境保全活動に貢献していきたいと考えています。

累計植樹本数のグラフ(単位:本)



“「木を植えた」喜びも、地域の皆さんと育んでいきます。”



(株)ダイヤモンドシティ
SC営業部
松本 智幸

◎販促担当だったこともあり、正直いって最初は「環境をからめた集客企画の一つ」程度に考えていました。ところが実際に参加して皆さんのイキイキした表情をみたら、この木々が育っていくのは何と素晴らしいことだろう、とお子さまが幸せな顔をしていると親ごさんも幸せそうですし、自分も幸せな気分になります。そうしてこの店も、十年くらいかけて地域にしっかり根づいて…。この体験を自分の子どもに話せる 때가、早くこないかと楽しみです。

◎自宅でも菜園や庭いじりをやっています。それでもお客さまと一緒にやって行こうというの、うなイベントは、地元の方々も参加しての店づくりという感じがして、いっそう楽しいですね。私は主に苗の準備をしてお渡しする役だったのですが、お客さまはそれぞれ、苗を自分で植えた位置を覚えておこうとされている様子でした。店のオープンとともに、皆さんには思い出も植えていただけたようで、とても心に残る一日でした。



リフォームスタジオ(株) マジックミシン
ダイヤモンドシティ・ハナ五条店 店長
鈴木 義明

! このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> ⇨ イオンの環境・社会貢献 ⇨ ふるさとの森新聞

お客さまとイオンを結ぶ活動

「毎月11日(イオン・デー)」は、ひとつのきっかけ。気持ちはいつもの同じです。



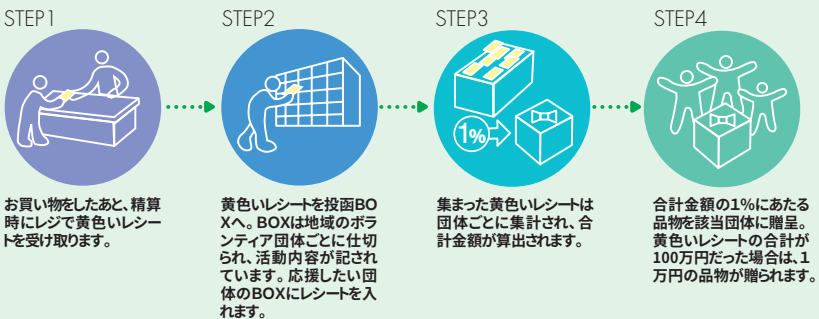
もっと地域と、お客さまの中へ。

●イオン・デー

イオンでは、2001年8月の社名変更を機に、毎月11日を「イオン・デー」と制定。エコロジー(環境)とローカル(地域還元)をテーマに、地域社会の一員としてさまざまな貢献活動をお客さまとともにを行っています。お買い上げ金額合計の1%を地域のボランティア団体などに還元する「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」をはじめ、従業員がボランティアで店舗周辺を清掃する「イオン・クリーンロード」など、「イオン・デー」は回を重ねるごとに地域に定着。従業員の一人ひとりが「お客さま第一」の精神を見直し、行動する日としても位置づけています。

●イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン
毎月11日の「イオン・デー」に実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、地域に根ざした貢献活動を行っているボランティア団体などを、お客さまとともに支えていく活動です。活動の輪は全国のイオンの店舗へと広がっています。

具体的な活動としては、「イオン・デー」にだけお渡しする黄色のお買い上げレシートを、店内の専用BOXに投函していただくことで、その合計金額の1%分の品



❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン <http://www.aeoninfo/> → イオンの環境・社会貢献 → 地球、そして地域とともに行動すること → ホットプレス → HOTPRESS一覧 → vol.213



物が地域のボランティア団体などへ寄贈されるというもの。ボランティア活動に役立つ品物を贈ることで、地域の皆さまへの還元も考えています。

2003年度に投函されたレシートの総額は、約55億2,109万円。その1%にあたる5,521万円を品物に換え、8,005団体*に還元させていただくことになりました。また、「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、2001年のスタートから2004年2月までに、イオン(株)をはじめグループ14社で実施。16,887団体(のべ団体数)に1億1,342万円相当の品物をお渡しすることができました。

イオンは今後も「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を通して、地域のお

客さまとの絆を深めながら、ボランティア活動への意識向上を図っていきたくと考えています。 ※上期・下期ののべ団体数

●地域との新たな交流

「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、助成先団体の皆さまから感謝され、お客さま・助成先団体の皆さま・イオンの結びつきをよりいっそう強いものとしています。このキャンペーンをきっかけとして、助成先団体の皆さまがイオンの植樹活動に参加したり、イオンの店内で支援バザーを開くなど、新たな交流も生まれています。このような関係を大切にしながら、イオンはこれからも地域に根ざした活動を続けていきます。



ジャスコ蒲郡店の小松店長(左)より塩津小学校の小幡教頭にティッシュ、ゴミ袋等の商品7,200円分を贈呈しました。

●イオンのクリーン活動

イオンでは「クリーン&グリーン活動」(イオン各社の従業員によるボランティア清掃活動)として公園、河川敷の公共施設や周辺地域の清掃活動に、1991年4月より継続的に取り組んできました。

2002年1月11日からはこれと平行して、国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」とタイアップした「イオン・クリーンロード」活動を実施。この活動では、店舗周辺の国道を対象に歩道や横断歩道橋、地下横断歩道におけるゴミ収集や植樹帯



の清掃を行っています。

また、各地方自治体が主催する「アドプト・ロード・プログラム」による清掃活動に参加している店舗・事業所もあります。このクリーン活動によってイオンは、地域の方々とともに、地域社会の発展と生活文化の向上をめざすという基本理念を改めて内外へアピール。イオンは今後も、行動規範に記された「すべては、お客さまのために」という価値観を大切に、よき企業市民としての活動をさらに広げていきます。

◎「イオン・クリーンロード」活動を151カ所で実施



※「ボランティア・サポート・プログラム」は国土交通省の各地方整備局ごとに清掃場所を登録しています。

“さまざまな支援を、子どもたちの活動に活かしています。”



2003年8月、大滝峡青少年旅行村で実施した「高学年キャンプ」の1コマ。恒例の「料理コンテスト」優勝をめざして、慣れない料理づくりにチャレンジ。他にもスポーツやきもだめしなど、楽しい3泊4日を通しました。

※十八歳以下の人なら誰でもかけられる子ども専用電話 悩み事でも相談でも話の内容はなんでもOK。電話に出るのは高校生から二五歳くらいまでのユース(青少年)です。

当センターでは子どもたちが生きる力をつかむための生活体験や鑑賞体験の機会を提供したり、子どもの社会参画の機会としてのMIE(みるチャイルドライン)に参加するなど、すべての子どもを視野に入れた公益的な活動を行っています。さらに、現在の社会情勢をふまえて子育て支援事業も実施しています。各企業さまからの支援はたいへんありがたいが、イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーンでいただくコピー用紙は、広報活動のために使わせていただいております。

特定非営利活動法人
松阪子どもNPOセンター 理事長
釜谷 恵子 (かまや・けいこ) さん

❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。

イオン・クリーンロード <http://www.aeoninfo/> → ホットプレス → HOTPRESS一覧 → vol.224

お客さまとともに体験活動

よく笑い、感動し、そして学ぶ。それが子どもたちの力になります。



大切な子どもたちのために。

●イオン「こどもエコクラブ」

次世代を担う子どもたちに環境について学ぶ場所を提供するために、環境省では1995年より「こどもエコクラブ」を提唱し、地域の中での環境学習や実践活動を支援しています。イオンでは、その趣旨に賛同しイオン「こどもエコクラブ」としてイオン全体で活動を積極的に推進しています。2003年度は138クラブ、3,314人の子どもたちと354人のサポーターが、全国各地のイオンを拠点にさまざまな活動を行いました。



全国のこどもエコクラブの1年間の活動は「壁新聞」にまとめられ、都道府県からそれぞれ代表1クラブが選ばれます。2003年度は、イオンこどもエコクラブ下田店し〜もちゃんクラブ、イオン東横こどもエコクラブ、イオン安岡こどもエコクラブ、イオンパークプレイス大分店こどもエコクラブの4クラブが選出され、環境省主催の「こどもエコクラブ全国フェスティバルinせんだい」に招待されました。

ちょっと緊張した表情で、江島・下関市長から激励を受けるイオン安岡こどもエコクラブのメンバーたち。



選ばれた4クラブの壁新聞



田んぼの生きもの調査
イオン(株)ジャスコ土崎港店

8月6日、秋田県仙南村において実施。気温30℃以上という暑さのなか、総勢46名の調査隊がカエル、サカナなどを探索しました。



有度山での植樹活動
イオン(株)ジャスコ清水店

前年の春に植樹した「イオンこどもエコクラブの森」で、育っていない苗木の植え替え作業などを実施。大いに自然を満喫しました。



自然観察会in秋田
イオン(株)ジャスコ清水店

子どもたちに秋田の自然を知ってもらいたい。そんな目的から紅葉まつり10月に開催。もみじ狩りやどんぐり拾いを楽しみました。



田植え・稲刈り体験

イオン(株)関東カンパニーから5店舗
ジャスコ千葉ニュータウン店・ジャスコイオン成田店
ジャスコ成田店・ジャスコ鎌取店・ジャスコ高根木戸店
イオン「こどもエコクラブ」と「花と緑の農芸財団」が共催。32名の子どもたちが、自然食古代米・黒米の田植えと稲刈りを行いました。



バードウォッチング
琉球ジャスコ(株)ジャスコ那覇店

11月23日、那覇市環境保全課のご協力をいただき、全23名が参加。双眼鏡を片手に水鳥湿地センターの鳥たちを観察しました。



子どもたちの環境学習
マックスバリュ北海道(株)

蛙が遡上する時期に合わせて、琴似発寒川で“蛙ウォッチング”を開催。多くの子どもたちが、大自然との触れあいを楽しみました。



地域の川の清掃活動
イオン九州(株)ジャスコ唐津店

「玉島川をシャケの住める川にしよう」をキャッチフレーズに川の清掃を行いました。川底のゴミもいらないに拾い上げました。



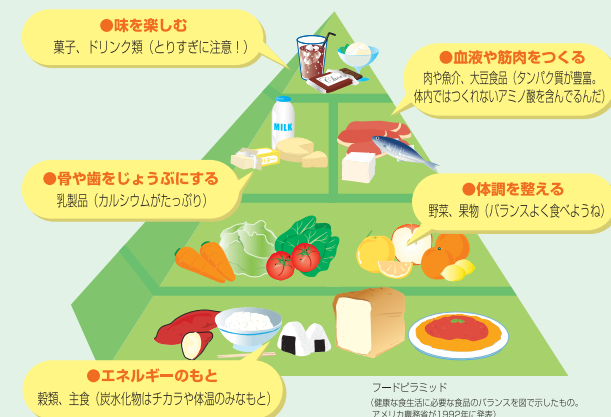
新大呂発電所見学会
イオン(株)ジャスコ鳥取店

水力発電所を訪ねて、水の流れから電気が生まれるまでの仕組みを学習。木炭電池の実験を、目を輝かせながら見つめていました。

●「5 A DAY(ファイブ・ア・デイ)」運動

健康的な食生活を実現するため、イオンは「5 A DAY」運動を推進。ファイブ・ア・デイとは、1日5皿(1皿70g)の野菜と200gの果物を食べることを推奨する食生活改善運動です。この運動を通じた活動を、イオンは食育活動として展開。小学生対象の「食育体験学習会」、主に親子対象の「収穫体験ツアー」、栄養士さんによる店頭での健康料理実演「レッツ ファイブ・ア・デイ」などです。

「食育体験学習会」は、食事バランスの大切さを五感を使った学習で子どもたちに伝えるもので、2004年3月現在、全国19カ所で開催。1,000名以上の子どもたちが参加しました。「収穫体験ツアー」では、店頭で販売されている野菜・果物の産地に赴き、収穫を通じて生産者の方々と触れあいを体験。毎年1,000名近くの皆さんを招待しています。さらに「レッツ ファイブ・ア・デイ」では、野菜を中心とした健康メニューを実演しています。



収穫体験ツアー／親子そろってキャベツや大根の収穫に挑戦。



レッツ ファイブ・ア・デイの店頭風景。



食育体験学習会／包丁を使わない安全な調理法で野菜サラダを作り、地元で採れた旬の野菜のおいしさを堪能。

“次代を担う子どもたちに、自然との触れあいを楽しんでほしい。”

お弁当やおにぎりに使われている減農薬栽培米の良さを、加盟店の方々にもっと知っていただきたい。そんな目的からミニストップ(株)では毎年「減農薬栽培米ツアー」というものを実施。今年で五年目を迎えます。

二〇〇三年度も契約農家の方々からご協力いただき、五回のツアーを実施しました。田植えや稲刈りなどの作業を通して生産者の苦心を知ることができると、参加者からも「好評をいただいています。また生産農家の方々からも「お店で売っている人の声を聞くことで作り甲斐が出る」と喜ばれており、双方の交流を深めることで品質向上にも役立っています。

さらにこのツアーはお子さま同伴の家族参加が基本で、子どもたちに自然との触れあいを楽しんでもらうという重要な役割も担っています。今年度からは応募対象を一般のお客さまにも拡大。より多くの子どもたちに自然から学ぶことの大切さを伝えたいと思っています。



*詳しくは「ミニストップ環境社会報告書2004」の20ページで紹介しています。

ミニストップ(株)商品本部
米飯・麺・パン商品部部長
竹本 竜治



❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> (イオンの環境・社会貢献) (イオン「こどもエコクラブ」) (親子で楽しむエコパビリオン)

❗ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> (5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)) (レッツ! 食育)

店舗から始まる環境保全活動

お客さまとともに、できることを続けています。



大切な資源を守るために。

●買物袋持参運動(レジ袋削減の取り組み)

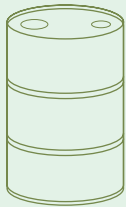
レジ袋は石油から作られています。そして、買い物が終わるとゴミになります。イオンでは1991年から買物袋持参運動を「お客さまとともに行う省資源活動」として開始しました。ゴミを減らすだけでなく、石油資源の節約や焼却時の大気汚染防止にもつながっていきます。

具体的なレジ袋削減の取り組み

- 1 お客さま自身に買物袋を持参していただくことにより、レジ袋の使用量を削減する。
- 2 関連商品として、マイバッグ、マイバスケットを販売する。
- 3 適量のレジ袋をお渡しすることにより、レジ袋の使用量を削減する。
- 4 レジ袋そのものを10～20%程度軽量化する。

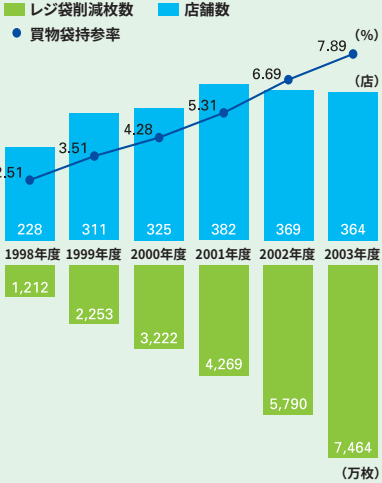
省資源効果(イオン(株)の場合)

石油ドラム缶(200L)約12,897本分の節約です。



計算式/APME(欧州プラスチック製造協会)の試算では、レジ袋1,000枚作るために必要な消費エネルギーを石油換算すると、32kgとなります。2003年度削減枚数74,638,784枚×0.032kg=2,388,441kg 石油1kg=1.08/(通商産業調査会「エネルギー未来からの警鐘」から引用)とすると、2003年度の石油削減量は2,388,441kg×1.08/=2,579,516/2,579,516 ÷200 L=12,897.58 本分

買物袋持参率とレジ袋削減推移(イオン(株)の場合)



《マイバッグ、マイバスケット》

レジ袋削減の一環として、マイバッグとマイバスケットを販売しています。レジ袋に詰め替えをしないで、そのまま商品をお持ち帰りいただくシステムとして好評です。マイバッグは2003年5月に新しいデザインへ切り換えました。また、お客さまの声がきっかけとなって実現したマイバスケット使用数累計は539,353個*になりました。 ※累計期間 2001年6月1日～2004年2月20日



●店頭リサイクル回収

2000年4月に容器包装リサイクル法が施行される以前から、イオンは店頭に、アルミ缶、食品トレイ、紙パック(牛乳パック)、PETボトル(一部地域)の回収BOXを設置し、お客さまと一緒にリサイクル活動を推進してきました。回収された資源を再商品化し、「トップバリュ共環宣言」として販



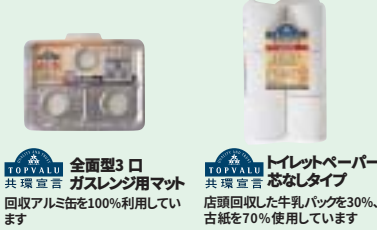
売することで、より多くのお客さまにリサイクル活動への参加を呼びかけています。

回収量の増加に伴い、洗っていない容器や違う材質の容器が混じることが多くなりました。

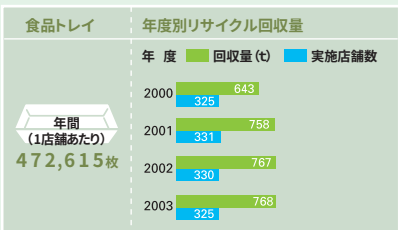
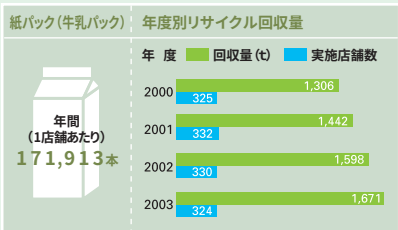
そこで2003年度は、回収でき

る容器を見分けやすくするために、回収BOXに説明用ステッカーを貼付しました。これからもイオンは、お客さまとともにリサイクル活動を進めていきます。

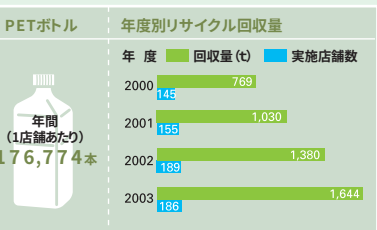
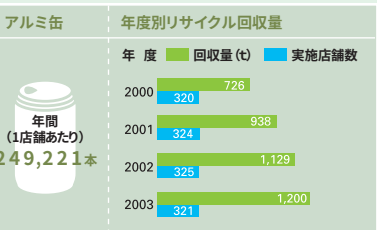
リサイクル材料を活用した商品(例)
(店頭回収原料を有効利用)



容器別リサイクル回収量(イオン(株)の場合)



紙パック(牛乳パック) 1,000ml 1本=30g アルミ缶(350ml) 1本=15g 食品トレイ 1枚=5g PETボトル(500ml) 1本=50g として換算しました。



環境に配慮した農産物循環システムへの取り組み

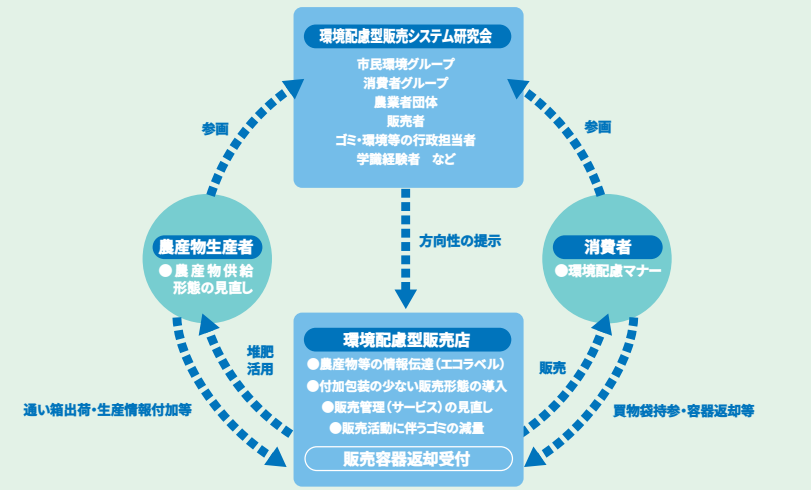
●京都で地産地消の試み

生産から流通、販売、消費、廃棄まで、すべての過程の主体が意志的に有機的につながることで、環境保全に有効な農産物の循環システムが働き始めます。イオンは、植田和弘・京都大学大学院教授(環境経済学)を中心として、消費者、NPO、販売店、行政、農業生産者などの関係者を交えて設立された「環境配慮型販売システム研究会」に参画。環境に配慮した農産物の循環システムの浸透を進めるため、2001年から始まった、生産・流通・消費の各現場でできるところから取り組んでいこうという社会的実験に、流通・販売の場を提供することで、能動的に取り組んでいます。

その舞台となっているのが、京都大学にほど近い学生街に位置するジャスコ東山二条店。地元の婦人会の協力を得て、毎年初夏には地元京野菜の食べかたの講習会と試食会が行われています。収穫が最盛

期を迎える6、7月には京茄子、賀茂茄子など20種類を超える京野菜が並び、おいしさや調理法はもとより、「地場産なので鮮度が高い」「旬のものなので健康に良い」また「生産と消費の場が近いから運送・保管にかかる環境コストも低い」といった、社会的な価値をお客さまに伝えています。ジャスコ東山二条店で始まった“地域の食材を・地域の食べ方で・地域で消費する”という地産地消の試みは、現在、市内の

ジャスコ4店舗に広がり、環境に配慮した農産物循環システムへの新たな提案として注目されています。



“消費者、NPO、販売店、行政、農業生産者で環境配慮型販売システムヘルールづくり。”

環境配慮型販売を実現するには、販売店だけが変わればよいというものではありません。生産者は環境に配慮した農産物の生産を行う。環境配慮情報を生産物につけて流通に出荷する。消費者はその情報をもとに、その農産物が環境にも自分の健康にもいいと評価して購入。農家を支える。こうした循環が回るためには、どんな情報をどんな方法で提供すればいいのか。それには、関係する市民、消費者、農家、環境グループ、行政、販売店、大学などさまざまな主体が、情報や認識を共有することが欠かせません。環境配慮型販売システム研究会ではこれらの主体が参加し、具体的な環境配慮の取り組み方法やメニューを検討したうえで、ジャスコ東山二条店に協力をいいただき、具体的に実践。その結果をもとにメニューを改良するといったことを過去三年間繰り返してきました。



環境配慮型販売システム研究会代表
京都大学大学院教授(環境経済学)
植田和弘さん

このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
買物袋持参運動 <http://www.aeon.info/> → イオンの環境・社会貢献 → 資源を大切に使うこと
店頭リサイクル回収 <http://www.aeon.info/> → イオンの環境・社会貢献 → 今月のエコだより
→ エコエコ学習館

店舗から始まる環境保全活動

日常業務の中でも、積極的な貢献を心掛けています。



CO₂排出量とゴミの削減。

●地球温暖化防止のための事業活動

国や地域を超えた地球温暖化防止への取り組みが進んでいます。温暖化の進行は予想以上に早く、さらに踏みこんだ対応が求められていることはいうまでもありません。私たちイオンにとってもCO₂排出量の削減、その結果としての地球温暖化防止はグループ共通の課題と位置づけられています。以上のような認識のもと、2003年度においてもCO₂削減のためのさまざまな活動が展開されました。アイドリングストップ運動を日常化する、こまめに電気を消して節電に努める、マイバッグの普

及によってレジ袋の使用を減らすなど、日々の活動の積み重ねによって事業活動にともなうCO₂排出量は確実に削減されています。

2003年度は重油の使用量を削減することでCO₂排出量を削減することができましたが、今後は、営業時間の延長や店舗面積の増加などによって、イオン全体のCO₂排出量は増加することが考えられます。CO₂排出量を減らすためには、使用するエネルギーを環境負荷のより少ないものにする、植樹活動などでCO₂を吸収するなどの対策が考えられます。

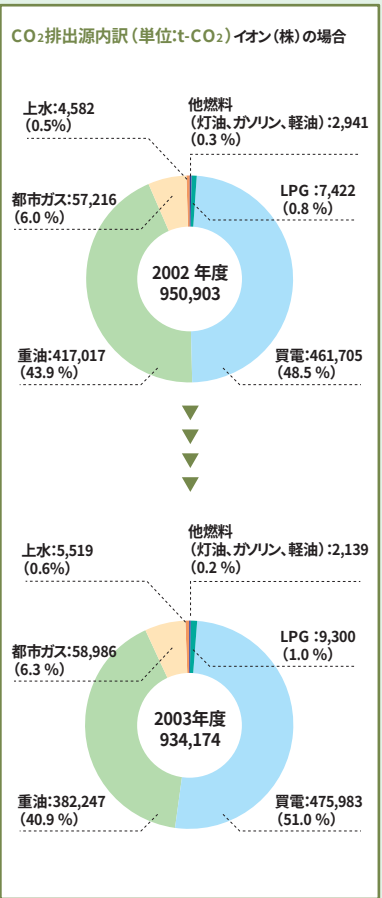
そこでイオンは、ガスタービンの排熱を2次利用する「コージェネレーションシ

ステム」を導入したり、省エネネットワークで、省エネルギー活動を進めています。

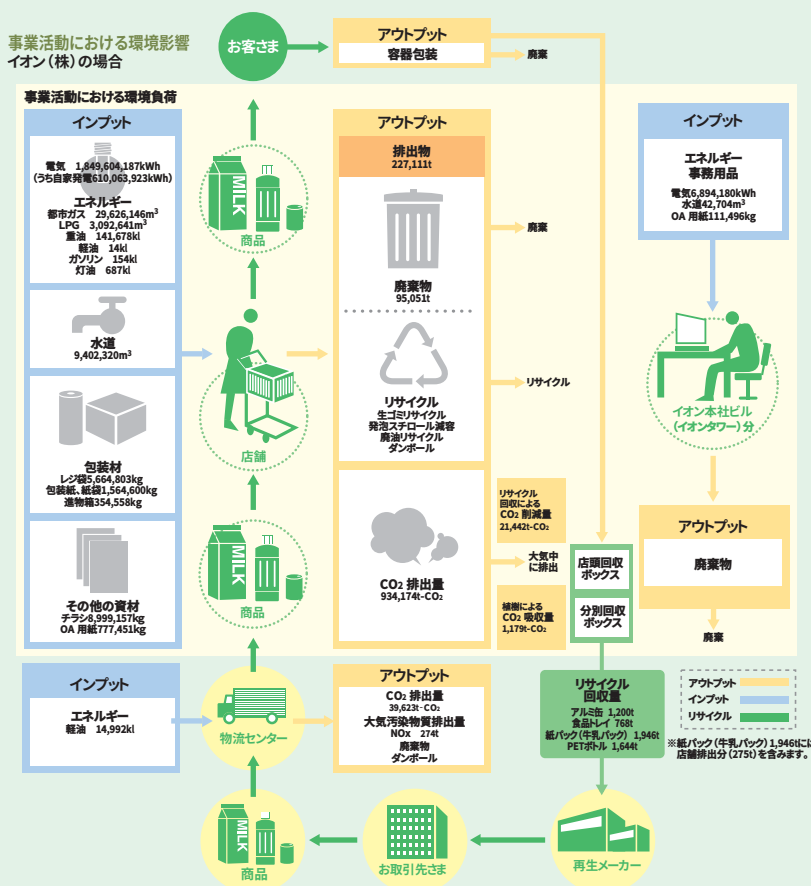
●オーストラリアでの植林事業

CO₂排出権を確保するために、2003年度から豪州アデレード地区における共同植林事業を開始しています。この事業は、豪州原産のユーカリを毎年1,000ヘクタールずつ「牧草地」に植林し、10年間で総植林面積を1万ヘクタールにするというものです。

この植林事業を通してイオンは、CO₂排出権の確保だけでなく、森林資源の保全、塩害の防止、地域経済の復興などにも大きく貢献しています。



このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> イオンの環境・社会貢献 地球温暖化を防ぐこと イオンの環境・社会貢献 今月のエコ日より



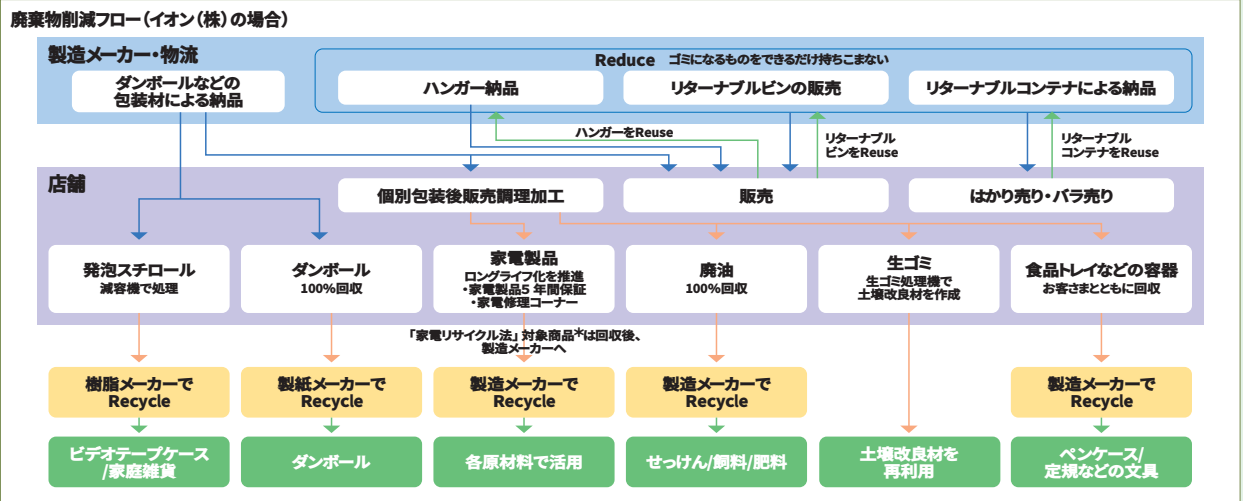
●廃棄物削減

限りある資源を有効利用し、理想の循環型社会を実現するためには、廃棄物の削減や再利用が不可欠です。この課題に対してイオンは、ゴミになるものをできるだけ持ちこまない「Reduce(リデュース)」、繰り返し使う「Reuse(リユース)」、資源として再利用する「Recycle(リサイクル)」の3Rを基本に取り組んで

います。

具体的には、店舗から出る生ゴミを減らすために生ゴミ処理機を導入。2004年2月20日現在で計77台を導入しており、1日平均16トンもの生ゴミを減らしています。また、野菜や果物を運搬する際に繰り返し使えるリターナブルコンテナを1,301万ケース利用し、ゴミとなるダンボール

を16,649トン削減。衣料品では、1,415万着分の納品にリユースハンガーを使用し、ダンボールを1,179トン削減しました。他にも、トウモロコシやサツマイモなどを原料としたポリ袋の開発、使い終わった食用油をせっけんや肥料などに100%リサイクルするなど、イオンは毎日の業務体制を通じて環境保全活動を推進しています。



※店舗運営における廃棄物実態調査の報告が、下記ホームページに掲載されています。

味の追求とゴミ減量の両立が課題。

まだまだ道は半ばです。

飲食店にとっては調理時間の短縮が重要テーマですが、これはゴミの減量にもつながるんです。私たちの例でいうと、野菜を厨房で切って調理していると時間がかかるうえ、年一五トンもの端材が出る。これがセントラルキッチンのカット野菜導入で約四五〇キロも減らせました。ソース類も個分けでずいぶんムダを少なくできました。カッなどの揚げものはフライヤーに油の濾過器を取りつけ、使う油の量を抑える試みも行っています。仕込み用の段ボールは繰り返し使えるリターナブルコンテナに代え、年間約四〇万箱も減量しました。スタッフにも意識として浸透してきたようです。若いアルバイトさんたちは「家で教わらないことを教わる」と新鮮に受けとめてくれますし、逆に主婦パパートの方は皆さん我が家の裏ワザをお持ちで、店のほうが「そのアイデア、いただき」ということも。

二〇〇三年度はジャック(株)と合併したことで、テイクアウト資材の削減という新たな課題が生まれました。スーパーマーケットのデリカ部門などで事例を勉強し、さらなるゴミの減量を考えていきたいと思います。

株式会社グルメボールCS部 統括マネジャー 関谷 義道

このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。
<http://www.aeon.info/> イオンの環境・社会貢献 ゴミをへらすこと イオンの環境・社会貢献 イオン環境・社会報告書2004 グループ企業紹介/IR (株)グルメボール

企業市民としての社会貢献活動

お客さまとともに、「夢のある未来」へ。



イオン 1 %クラブ

イオン 1 %クラブは、グループ優良企業の税引き前利益の 1 %を資金とし、「環境保全」、「国際的な文化・人材交流」、「地域の文化・社会の振興」をテーマにさまざまな活動を行っています。2003年度の拠出額は7.78億円で、累計拠出額は63.12億円と



「カンボジア学校建設」への支援／当初の計画を大幅に上回る149校の学校を建設。約8万人の子どもたちが、学校へ通えるようになりました。



財団法人 イオン環境財団

(財)イオン環境財団は、開発途上国や国内の環境保全を目的とした事業の実施とその助成に永続的に取り組むために、1991年に設立されました。2003年度は、「自然の生態系を守るために」をテーマに助成先を公募。厳正な審査の結果、180件の応募に対して103件、1億円の助成を行いました。設立から現在までの累計助成額は11億7,797万円となりました。



知床 森の再生植樹活動／2003年10月、100人以上のボランティアが参加して約1,000本の広葉樹を植樹しました。

このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。

<http://www.aeon.info/>

なりました。

2003年度は、2001年から3カ年計画で進めてきた「カンボジア学校建設支援」募金の最終年度にあたり、イオン各社の店頭などで募金活動を行い、大きな成果を上げました。また、今年度で3作目となる「エコロジーマジカル」では『天狗のかくれ里』を公演。全国60カ所の会場で、67、



エコロジーマジカル／大きな声で歌い、踊る、お魚役の子どもたち。その一生懸命な演技に、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



佐渡 トキの森づくり／トキのねぐらとなる森づくりを展開。数年後にはトキの野生復帰が計画されています。

これまで、1998年から3カ年計画で進められてきた「万里の長城・森の再生プロジェクト」や、アンコールワットでの植樹などを行ってきましたが、2003年度は国内での植樹活動を積極的に展開しました。まず昨年度に続き「知床 森の再生・植樹活動」を実施。この活動は2006年まで5カ年計画で進められます。また、国際保護鳥であるトキの野生復帰をめざした「佐渡 トキの森づくり」、2002年の大火で焼

292人の皆さんにお楽しみいただきながら環境の大切さを訴えました。さらに8月には、次代を担う子どもたちが環境問題を考えるきっかけとなるよう、「ドイツに学ぶエコライフ」ツアーを開催。計48名の小・中学生が参加し、エコファームや風力発電など、環境先進国・ドイツで貴重な体験を積んできました。



「ドイツに学ぶエコライフ」ツアー／環境に配慮した施設の説明をするエコ・ファームの主人。子どもたちは、改めて環境の大切さを学びました。

失した岐阜県各務原市の「岐阜・山火事跡地 森の再生・植樹活動」なども実施。以上の活動には約1,000名のボランティアが参加し、約8,800本の苗木を植えました。



岐阜・山火事跡地 森の再生・植樹活動／早期の森再生を願い、行政と地域住民が中心となった植樹活動を行いました。

イオンの環境・社会貢献

イオンの環境・社会貢献

イオン 1 %クラブ

(財)イオン環境財団



財団法人 岡田文化財団

三重県の芸術・文化を振興するために設立された(財)岡田文化財団は、2004年で設立25周年を迎えます。

2003年度は、フランス印象主義の代表的な画家であるクロード・モネの油彩画を三重県立美術館に寄贈。同美術館における20周年記念展示会の主展示作品として注目を集めました。これまでも同財団は、シャガールの作品をはじめ、洋画や日本画、彫刻など400点余りの芸術作品を寄贈。芸術家の表彰や育成支援などにも力を注いでいます。



理事長の岡田卓也より野呂・三重県知事へ、クロード・モネの油彩画『橋から見たアルジャントユイユの泊地』を寄贈。

“トキの棲みかとしての森の復活を祈って、約2,000本の木を植樹しました。”

昨年10月、「佐渡トキの森づくり」植樹活動が実施されました。全部で188名のボランティアが参加。アカマツを中心にミズナラ、オオヤマザクラなどの苗木を植樹しました。



イオンクレジットサービス(株) 新潟支店 赤間 実香

◎植樹地までの七〇分の山道はかなり大変だったのですが、それだけに植樹への充実感を得ました。担当した区画にとどまらず一人で五本くらいの苗木を植えることができて、とても楽しかったです。トキは日本にとつてそして地元にとつても大切な鳥です。この森にトキが棲みつてくれればと願っています。

◎今回の植樹活動に参加して、土砂崩れ跡地を実際に見てみて、自分たちの手でなんとかしなくてはいけないという使命感を持ちました。植えた苗木は我が子のように感じられ、一〇年後、二〇年後が本当に楽しみです。



イオンクレジットサービス(株) 立川営業所 池崎 一也

このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。

<http://www.aeon.info/>

イオンの募金活動

イオンでは地震などの災害、環境保全等の支援運動に対して、全社一丸となった募金活動を行っています。2003年度の主な募金活動には、①「カンボジア学校建設支援」募金：3カ年計画の最終年度にあたり、総額1億円超を贈呈。②「地球温暖化防止キャンペーン」募金：温暖化を防ぐため、海水中のCO₂を吸収するサンゴ礁を

◆2003年度の主な募金活動

活動名称(参加企業数)・活動期間	お客さま従業員からの募金額	イオンからの寄付金額	総額	贈呈先
カンボジア学校建設支援 募金(59社) 2003/4/21～2003/6/22	5,578万9,478円	5,600万円 (イオン1%クラブ寄付)	1億1,178万9,478円	財団法人 日本ユニセフ協会
「地球温暖化防止キャンペーン」募金(35社) 2003/6/26～2003/9/7	1,028万6,742円	1,100万円 (イオン1%クラブ寄付)	2,128万6,742円	財団法人 世界自然保護基金(WWF)ジャパン
「平成15年十勝沖地震被害義援金」(2社) 2003/10/11～2003/10/12	635万2,000円	—	635万2,000円	日本赤十字社北海道支部
「トキに森を返そう」キャンペーン募金(39社) 2003/11/28～2003/12/25	907万7,666円	1,000万円 (イオン環境財団寄付)	1,907万7,666円	新潟県トキ保護基金推進委員会
イラン大地震「被災者緊急支援」募金(52社) 2003/12/30～2004/1/12	5,707万9,597円	5,500万円 (イオン1%クラブ寄付)	1億1,207万9,597円	ジャパン・プラットフォーム
合計	1億3,858万5,483円	1億3,200万円	2億7,058万5,483円	

◆2003年度の継続的な募金活動

活動名称(参加企業数)・活動期間	2003年度募金額	累計募金額(累計期間)	贈呈先
赤い羽根共同募金 2003/10/11～2003/10/31	541万6,250円	1億1,585万3,014円 (1983年度～2003年度)	社会福祉法人 中央共同募金会
盲導犬育成支援募金(17社) 2003/9/21～2003/11/20	1,851万6,419円	1億4,824万1,485円 (1989年度～2003年度)	全国盲導犬施設連合会
白血病患者支援募金 2004/1/21～2004/2/20	420万1,993円	1,643万6,366円 (2000年度～2003年度)	特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

イオン環境マネジメント推進体制について

イオン環境理念

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、
人間を尊重し、地域社会に貢献する」というグループ理念のもと、
企業市民としての社会的責任を果たすため、
社会貢献活動と環境保全活動を積極的に推進していきます。
同時に私たちは、これらの活動が地域に根ざしたものであると認識し、
地域の方々とのパートナーシップを育み、循環型社会の構築を目指します。

グループ全体での環境マネジメント推進をめざしています。

イオンでは、環境保全活動を重要な経営課題と位置づけ、事業活動と環境保全活動を一体化した環境マネジメント活動を推進しています。環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得した企業は、2004年2月20日現在で17社となりました。各社では社長を筆頭としたマネジメント体制を構築し、環境問題を審議する「環境委員会」等を設置。業種・業態に応じた課題を設定し、環境負荷削減に取り組んでいます。またイオン(株)の環境委員会決定事項はイオンの方針としてグループ全体が共有する仕組みとなっています。目標や理念、仕組みを共有する一方で、各社の独自性も尊重した環境保全活動を推進していきます。

ISO (14001、9000シリーズ) 認証取得企業一覧

2004年2月20日現在

社名	規格	社名	規格
イオン(株)	ISO14001	イオンモール(株)	ISO14001
青島永旺東泰商業有限公司	ISO9001	イオン九州(株)	ISO14001
マックスバリュ東北(株)	ISO14001	イオンクレジットサービス(株)	ISO14001、ISO9001
(株)品質管理センター	ISO9002	琉球ジャスコ(株)	ISO14001
チェルト(株)	ISO14001	(株)イオンテクノサービス	ISO9002、ISO14001
(株)フードサプライジャスコ	ISO14001	マックスバリュ北海道(株)	ISO14001
マックスバリュ西日本(株)	ISO14001	マックスバリュ九州(株)	ISO14001
(株)ダイヤモンドシティ	ISO14001	ミニストップ(株)	ISO14001
マックスバリュ中部(株)	ISO14001、ISO9001	ローラアシュレイジャパン(株)	ISO14001
アイク(株)	ISO14001		(ISO認証取得順)

イオン株式会社 環境方針

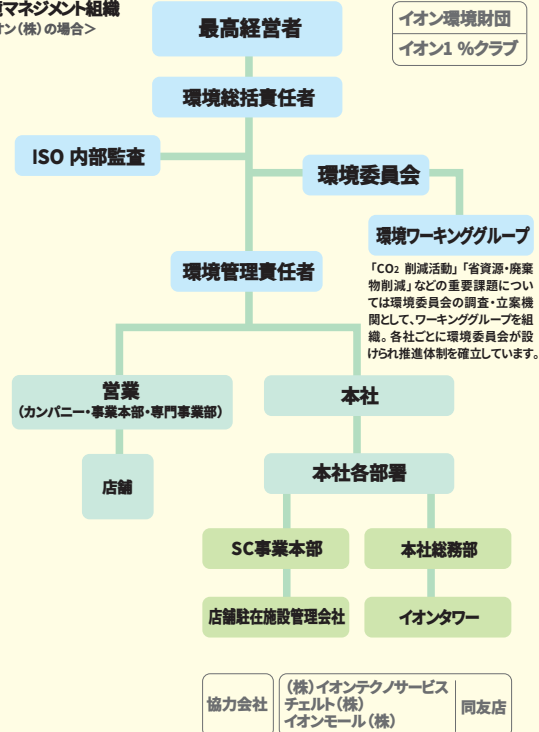
イオン株式会社は、「お客さま第一」を基本に、小売業としてお客さまに安全で安心してご利用いただける商品・サービスの提供、店舗づくりを通じて、豊かな暮らしと地球環境保全の両立を目指し、循環型社会の構築に寄与していきます。また、地域社会の一員として、未来を担う子どもたちへの環境教育と実践を通じて、健やかな成長を支えます。

1. 環境マネジメントシステムにより、事業における汚染の予防に取組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せるような仕事の仕組みをつくり、環境効率を向上させます。また、この活動は定期的に見直しを行い、継続的改善を進めます。
 - ① 環境に配慮した商品・サービスの提供、店舗づくりに取組みます。
 - ② 省エネルギー・省資源を推進します。
 - ③ リデュース・リユース・リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。排出するものについては、適正処理を行います。
 - ④ 地球温暖化防止のために、CO₂の排出量を削減します。
 - ⑤ グリーン購入を推進し、環境負荷の少ないものを使用・購入するよう努めます。
 - ⑥ 地域のお客さまとともに、積極活動に取り組めます。
2. 環境保全に関連するコンプライアンス(法令遵守)を約束し、受け入れを決めた要求事項を遵守します。
3. この方針を全従業員に周知徹底し、一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
4. この方針は広く公開します。そして、全ての人々との積極的な環境コミュニケーション活動によってパートナーシップを育み、ともに環境保全活動を推進します。

イオン株式会社 2003年8月21日

取締役兼代表執行役社長
取締役兼執行役副社長
(環境総括責任者)

環境マネジメント組織 <イオン(株)の場合>



2004年2月20日現在

❶ このページの内容について、イオンのホームページでも紹介しています。 <http://www.aeon.info/> ➡ グループ企業紹介/IR

環境会計をご報告します

2003年度環境会計の特徴 ① 記載されている数値は、イオン(株)、琉球ジャスコ(株)、マックスバリュ北海道(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ西日本(株)の6社の合算の数値です。 ② 6社個別の数値は、ホームページで確認することができます。 ③ 環境マネジメントシステムの一環として機能させるため、「ISO14001」の環境目標に沿って項目を整理しました。 ④ 貨幣効果は、実質的な経済効果のみにとどめ、リスク回避効果などのみなし効果は算出していません。 今後の方向性 ① 本年度は6社の集計を報告していますが、今後はさらに参加公表企業をグループ内で拡大していきます。	2003年度環境会計の算定基準 集計期間:2003年2月21日から2004年2月20日の1年間 集計範囲:イオン(株)、琉球ジャスコ(株)、マックスバリュ北海道(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ西日本(株) 単位:100万円 <table> <tr> <th colspan="2">環境保全コストの計上基準</th></tr> <tr> <td>① 複合コスト</td><td>環境目的以外のコストと結合した複合コストは下記の優先順位で算出しています。1.差額の集計、2.按分集計(合理的な考えに基づき複合コストを支出目的により按分)、3.簡便法による集計(人件費項目で採用)、4.特記つき全額計上</td></tr> <tr> <td>② 人件費</td><td>環境保全活動に直接関与する部署(環境社会貢献、ISO推進担当)の人件費を計上しています。(担当者が兼務の場合は50%計上)</td></tr> <tr> <td>③ 投資</td><td>期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額(リース契約の場合は取得価格)で計上しています。</td></tr> <tr> <td>④ 減価償却費</td><td>過去の資産台帳からの集計作業の困難さや減価償却累計額の取扱い方法の未確定等の問題により、当年度は減価償却額は計上していません。</td></tr> <tr> <td>⑤ 環境保全型商品および「SELF+SERVICE」の開発費</td><td>環境保全型商品の開発担当者(環境商品開発にかかる比率に準じて按分計上)の人件費と商品モニター経費、および商品パッケージデザイン費が含まれています。「SELF+SERVICE」の開発費としては本部スタッフの人件費とデザインコンサルタントフィーが含まれています。</td></tr> </table> <table> <tr> <th colspan="2">経済効果の計上基準</th></tr> <tr> <td>① 省エネルギー対策による削減効果</td><td>期中に投資した環境負荷低減の関連機器の年間電気使用量の削減効果(推定)を計上しています。</td></tr> <tr> <td>② 節水対策による削減効果</td><td>期中に投資した節水関連機器の年間水道使用量の削減効果(推定)を計上しています。</td></tr> <tr> <td>③ レジ袋使用量削減による効果および薄肉化による効果</td><td>(スタンパード回収枚数×20×1回あたりの使用枚数×レジ袋1枚あたり単価) (買物袋持参率=スタンパード回収枚数×20/食品レジ通過客数)</td></tr> <tr> <td>④ リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品によるダンボール削減効果</td><td>リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品の数より削減ダンボール重量(kg)を計算し、削減金額を算出しています。(一般廃棄物処理料金14.4円/kg)</td></tr> <tr> <td>⑤ 店頭リサイクル活動による収入</td><td>店頭リサイクル活動によって回収した有価物(牛乳パック、アルミ缶)の売却収入額を計上しました。</td></tr> </table>	環境保全コストの計上基準		① 複合コスト	環境目的以外のコストと結合した複合コストは下記の優先順位で算出しています。1.差額の集計、2.按分集計(合理的な考えに基づき複合コストを支出目的により按分)、3.簡便法による集計(人件費項目で採用)、4.特記つき全額計上	② 人件費	環境保全活動に直接関与する部署(環境社会貢献、ISO推進担当)の人件費を計上しています。(担当者が兼務の場合は50%計上)	③ 投資	期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額(リース契約の場合は取得価格)で計上しています。	④ 減価償却費	過去の資産台帳からの集計作業の困難さや減価償却累計額の取扱い方法の未確定等の問題により、当年度は減価償却額は計上していません。	⑤ 環境保全型商品および「SELF+SERVICE」の開発費	環境保全型商品の開発担当者(環境商品開発にかかる比率に準じて按分計上)の人件費と商品モニター経費、および商品パッケージデザイン費が含まれています。「SELF+SERVICE」の開発費としては本部スタッフの人件費とデザインコンサルタントフィーが含まれています。	経済効果の計上基準		① 省エネルギー対策による削減効果	期中に投資した環境負荷低減の関連機器の年間電気使用量の削減効果(推定)を計上しています。	② 節水対策による削減効果	期中に投資した節水関連機器の年間水道使用量の削減効果(推定)を計上しています。	③ レジ袋使用量削減による効果および薄肉化による効果	(スタンパード回収枚数×20×1回あたりの使用枚数×レジ袋1枚あたり単価) (買物袋持参率=スタンパード回収枚数×20/食品レジ通過客数)	④ リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品によるダンボール削減効果	リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品の数より削減ダンボール重量(kg)を計算し、削減金額を算出しています。(一般廃棄物処理料金14.4円/kg)	⑤ 店頭リサイクル活動による収入	店頭リサイクル活動によって回収した有価物(牛乳パック、アルミ缶)の売却収入額を計上しました。
環境保全コストの計上基準																									
① 複合コスト	環境目的以外のコストと結合した複合コストは下記の優先順位で算出しています。1.差額の集計、2.按分集計(合理的な考えに基づき複合コストを支出目的により按分)、3.簡便法による集計(人件費項目で採用)、4.特記つき全額計上																								
② 人件費	環境保全活動に直接関与する部署(環境社会貢献、ISO推進担当)の人件費を計上しています。(担当者が兼務の場合は50%計上)																								
③ 投資	期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額(リース契約の場合は取得価格)で計上しています。																								
④ 減価償却費	過去の資産台帳からの集計作業の困難さや減価償却累計額の取扱い方法の未確定等の問題により、当年度は減価償却額は計上していません。																								
⑤ 環境保全型商品および「SELF+SERVICE」の開発費	環境保全型商品の開発担当者(環境商品開発にかかる比率に準じて按分計上)の人件費と商品モニター経費、および商品パッケージデザイン費が含まれています。「SELF+SERVICE」の開発費としては本部スタッフの人件費とデザインコンサルタントフィーが含まれています。																								
経済効果の計上基準																									
① 省エネルギー対策による削減効果	期中に投資した環境負荷低減の関連機器の年間電気使用量の削減効果(推定)を計上しています。																								
② 節水対策による削減効果	期中に投資した節水関連機器の年間水道使用量の削減効果(推定)を計上しています。																								
③ レジ袋使用量削減による効果および薄肉化による効果	(スタンパード回収枚数×20×1回あたりの使用枚数×レジ袋1枚あたり単価) (買物袋持参率=スタンパード回収枚数×20/食品レジ通過客数)																								
④ リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品によるダンボール削減効果	リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品の数より削減ダンボール重量(kg)を計算し、削減金額を算出しています。(一般廃棄物処理料金14.4円/kg)																								
⑤ 店頭リサイクル活動による収入	店頭リサイクル活動によって回収した有価物(牛乳パック、アルミ缶)の売却収入額を計上しました。																								

2003年度イオン環境会計

2003.2.21～2004.2.20

2003年度の目的・目標		取り組み内容	環境保全コスト		経済効果	掲載 ページ
			投資金額	経費金額		
環境に配慮した 商品の提供	環境保全型商品の開発・販売	環境保全型商品「トップバリュ 共環宣言」の開発・販売拡大	0	0	0	P19
	「トップバリュ グリーンアイ」の開発・販売	「トップバリュ グリーンアイ」の開発・販売拡大、契約産地の拡大	0	45	0	P19～P21
	「SELF＋SERVICE」の展開	「SELF＋SERVICE」の展開	0	126	0	P22
	小計		0	171	0	
省エネルギー/ 省資源の取り組み	電気使用量の削減	省エネルギー設備の導入	233	0	42	—
	水道使用量の削減	節水装置、雨水活用システムの導入	87	0	20	—
	コピー用紙、OA用紙の使用量削減	Eメールの活用、両面コピーの推進	0	0	0	—
	買物袋持参率の向上	買物袋持参運動、マイバッグ、マイバスケット運動の推進強化	0	270	211	P36
	レジ袋使用量の削減	包装用ポリ袋の厚み変更による減量化	0	0	0	P36
	物流システムの効率化	配送ルート効率化、配送便の削減と積載効率の向上	0	2	7	—
	小計		321	272	280	
廃棄物の削減と 再資源化への取り組み	廃棄物の分別化推進	生ゴミ処理機導入によるリサイクル化の推進	35	0	4	P38～P39
		発泡スチロール減容機導入によるリサイクル化の推進	4	0	18	—
		蛍光管リサイクルコスト	0	12	0	—
		小計	39	12	22	—
	店舗から排出するダンボールの削減	リターナブルコンテナの活用によるダンボール使用量の削減	90	0	260	P38～P39
		リユースハンガー納品によるダンボール使用量の削減	0	0	0	P38～P39
		小計	90	0	260	—
	店頭リサイクル活動の推進	店頭リサイクル活動の推進	8	569	68	P36
	小計		137	580	350	
グリーン購入	グリーン購入基準の策定、実施	グリーン購入基準を策定、実施	0	2	0	—
植樹活動	「イオン ふるさと森づくり」の継続実施	地域のお客さまと「イオン ふるさと森づくり」の実施	7	229	0	P31
法規制の遵守	法規制の遵守	ばい煙測定・水質検査の実施、容器包装リサイクル法への対応	0	761	0	—
		事業系一般廃棄物の適正処理	0	4,686	0	P38～39
		産業廃棄物処理のマニフェストによる適正処理	9	1,226	0	—
		小計	9	6,673	0	
公害防止のための自主的取り組み		公害（大気・水質・土壌汚染・地盤沈下・悪臭・光害）防止のための自主的取り組みの実施	593	427	0	—
地域密着型の環境コミュニケーション活動	地域密着型の環境コミュニケーション活動	自然保護・美化・景観保持活動	0	44	0	P32～33
		地域のお客さまとの環境支援活動	0	56	0	P34～35
		環境情報の公開	0	663	0	—
		環境保護団体への寄付、支援活動	0	121	0	P32
		小計	0	885	0	
環境保全活動の維持管理コスト	環境保全活動の維持管理コスト	従業員への環境教育	0	8	0	—
		環境マネジメントシステムの維持管理	0	26	0	—
		環境保全対策組織の人件費	0	141	0	—
		小計	0	175	0	
環境損傷の修復コスト		土壌汚染、自然破壊への対応	0	7	0	—
コスト総合計			1,067	9,422	630	

❗ くわしくは、イオンのホームページで紹介しています。 <http://www.aeon.info/> (→) イオンの環境・社会貢献 (→) イオン環境・社会報告書2004

ISO14001の目標と実績をご報告します

イオン(株)の目標と実績

◎=達成できました △=達成できませんでした但が努力を続けています

環境方針	環境目的 (2005年度に達成する)	2003年度			
		目標	結果	超過率	評価
1.環境に配慮した商品の提供に努めます	環境保全型商品の売上構成比3.0%の達成	(1) ①環境に配慮した商品の売上構成比2.0%の達成 トップバリュグリーンアイ 26,387百万円 トップバリュ 共環宣言 2,265百万円 SELF+SERVICE 1,442百万円	1.56% 21,922百万円 2,539百万円 1,318百万円	83.1% 112.1% 91.4%	△
		②新たな環境配慮基準の決定	環境配慮基準決定できず	――	
		(2)トップバリュ商品における容器包装材のプラスチック使用量の削減に向けて実験を開始する	「素材」、「分別のし易さ」「量」「詰替え」などの基準(案)はできたが、実験には至っていない	――	
2.省エネ、省資源、廃棄物削減に取り組めます	電気使用量を原単位で2002年度対比5%削減	(1) 電気使用量を原単位で2002年度対比2.0%削減する 累計原単位目標43Wh/m ² ・h	34.8Wh/m ² ・h	80.9%	◎
	プラ包装資材・紙包装資材を重量ベースで2002年度対比2%削減	(2) プラ包装資材・紙包装資材の使用量を重量ベースで2002年度対比0.5%削減する	実施できず	――	△
	買物袋持参率30%の実現	(3) 買物袋持参率14.5%の達成 スタンプカード回収枚数 全店 昨対 126% 121万枚⇒152万枚	上期 7.18% 下期 8.71% 年間 7.89%	54.4%	△
	廃棄売価変更の額を2002年度対比20%削減	(4) 廃棄売価変更の額を2002年度対比5%削減する 目標金額 120.5億円(4カンパニー計)	139.4億円	115.6%	△
	生ゴミリサイクル率30%の達成	(5) 生ゴミリサイクル率25%の達成	26%	104.0%	◎
	各カンパニー、マックスバリュ、メガマートのモデル店舗(6店舗)でゴミの計量・分別を実現し、全店舗に向けた準備を進める	(6) ゴミ分別の実験店舗の導入を開東エリアで3店舗決め、人時を含めたモデルを構築する	実験店舗での実施できず	――	△
3.循環型社会形成に向け、リユース・リサイクル・グリーン購入に取り組めます	水産用リターナブルコンテナを導入し、廃発泡スチロールの排出を抑制する	(1) 水産部門にてリターナブルコンテナ納品を30品目導入 ダンボール納品を50品目で実施する(計80品目)	80品目(ダンボールのみ) ※水産用リターナブルコンテナは、実現せず	100.0%	◎
	全事業所(本社・カンパニー・店舗)で紙のリサイクルの実施	(2) ①全店・全事業所毎のOA用紙のリサイクル量の実績把握 ②紙のリサイクルのできていない事業所をなくす	①127店舗にて実績把握 ②残り約250店舗にてリサイクル実施できず	――	△
	グリーン調達の商品品目の増大	(3) 新店建設時に特定のグリーン調達品(7品目)が使用できる施行箇所、それを10%以上使う	間伐材 61% 再生ポリフィルム 55% 再生アスファルト合材 76% など	――	◎
	エコストア基準の設定	(4) 環境に配慮した店づくり(屋上緑化、雨水利用など)を進める	(下記のジャスコ店舗で実施) 雨水利用:津田沼店、昭島店 屋上緑化:東雲店、昭島店、津田沼店 ソーラー街灯:昭島店、入間店	――	◎
	グリーン購入のさらなる拡大	(5) イオングリーン購入基準を明確にし、事務用品の発注リストの商品を100%その基準に基づいたものにする	事務用品のみならず、包装資材や帳票類にも拡大した。 しかし事務用品については100%の入れ替えは実施できなかった。 トナーのリサイクルシステムを確立した	――	△
	紙排出量を2002年度対比20%削減	(6) 働き方改革推進会議を基に、本社内のレスペーパーの推進を図る	ペーパーレス会議用備品貸出 コンパスキャビネット(電子書庫)の稼働 ペーパーレス会議の拡大	――	△
4.地球温暖化防止のために、CO ₂ の排出を削減します	CO ₂ 排出量を原単位で2002年度対比5%削減	(1) 地球温暖化対策ビジョンを作成する	グループ22社の排出量把握	――	△
	配送車両をディーゼル規制対応車へ100%切り替える	(2) ①関東(東京・千葉・埼玉・神奈川)の規制対応車両導入100% ②天然ガス車導入累計15台	①切り替え完了 ②累計15台導入済み	――	◎
5.地域のお客さまとともに植樹活動に取り組めます	イオン ふるさとの森づくり継続実施	(1) 30カ所、33万本の植樹を実施する	20.3万本の植樹を実施	61.5%	△
6.コンプライアンス(法令遵守)を約束し、受入れを決めた要求事項を遵守します	土壌汚染を発生させない体制の確立	(1) 方針の策定および施策の決定と実施、検証のプロセスを確立	グループ各社担当者を決定 自社所有地171件をリストアップ調査を実施 登記簿による地歴調査を実施	――	◎

イオン(株)以外の各社も「環境方針」「環境目的」「環境目標」を策定し、取り組んでいます。

※2003年度の目標と実績数値については同規模対比で管理しています。

環境目的 (2005年度に達成する)	2004年度	
	目標	
環境保全型商品の売上構成比3.0%の達成	(1) ①環境に配慮した商品の売上構成比1.6%の達成 トップバリュグリーンアイ 24,190百万円 トップバリュ 共環宣言 2,510百万円 SELF+SERVICE 1,760百万円	△
	②新たな環境配慮基準の決定	
	(2) 環境に配慮した商品の基準見直しの一環として容器包装の環境配慮基準を策定⇒商品化に着手	
電気使用量を原単位で2002年度対比5%削減	(1) 電気使用量を原単位で2002年度対比3.5%削減	◎
プラ包装資材・紙包装資材を重量ベースで2002年度対比2%削減	(2) 重量ベースで2002年度対比1%削減 (包装資材のロゴマークの統一による在庫削減・コスト削減をめざす)	△
買物袋持参率30%の実現	(3) 買物袋持参率14.5%の達成 ①従業員の意識改革 ②基本指示事項再徹底 ③マイバッグの拡販 等	△
廃棄売価変更の額を2002年度対比20%削減	(4) 食品部門の廃棄売価変更の額を売上構成比2%以下にする	△
生ゴミリサイクル率30%の達成	(5) 生ゴミリサイクル率27%の達成 生ゴミサイクルの優先順位の見直し 1.登録再生利用事業者委託 2.非登録再生利用事業者委託 3.生ゴミ処理機による自社での堆肥化	◎
各カンパニー、マックスバリュ、メガマートのモデル店舗(6店舗)でゴミの計量・分別を実現し、全店舗に向けた準備を進める	(6) ジャスコ大和鶴間店をモデル店とし、廃棄物分別・計量実施	△
水産用リターナブルコンテナを導入し、廃発泡スチロールの排出を抑制する	(1) 水産用リターナブルコンテナ累計30品目導入 (関東、西日本で下期から実施予定)	◎
全事業所(本社・カンパニー・店舗)で紙のリサイクルの実施	(2) ①リサイクル実施127店舗→2003年度対比105% ②未実施店舗→全事業所でのリサイクル量を把握	△
グリーン調達の商品品目の増大	(3) 新店建設時に特定のグリーン調達品(7品目)が使用できる施工箇所、それを10%以上使う	◎
エコストア基準の設定	(4) エコストア基準の策定 「これがイオンのエコストア」 ①建設資材の低環境負荷材 ②自然エネルギー ③室内環境 等について	◎
グリーン購入のさらなる拡大	(5) ①販促資材で1500種以上、店舗で使用する帳票類・パンフレット250種以上の資材の印刷で環境に配慮したインクを使用 ②全店において、蛍光管のリサイクルシステムを導入	△
紙排出量を2002年度対比20%削減	(6) レスペーパーの更なる推進 ①店舗への拡大 ②コンパスキャビネット(電子書庫)と連携し「検索ツール」導入 ③各業務システムにおけるイントラネットの活用	△
CO ₂ 排出量を原単位で2002年度対比5%削減	(1) 地球温暖化対策ビジョンを作成する 2005年度からグループ40社で把握を開始 グループとしての削減目標を設定する	△
配送車両をディーゼル規制対応車へ100%切り替える	(2) ①配送車両管理体制を構築し、NOx・PM法の遵守状況を管理する ②天然ガス車導入累計20台	◎
イオン ふるさとの森づくり継続実施	(1) グループで、72カ所に37万5千本の植樹を実施 (2) イオン「こどもエコクラブ」の会員数を3,800名にする	△
土壌汚染を発生させない体制の確立	(1) 調査の継続 残り161物件の中で、地歴調査すべきものをリストアップし、調査継続	◎



環境管理責任者
常務執行役
人事担当兼総務担当兼環境担当
林 直樹

(2004年5月19日付にて専務執行役に就任予定)

2003年度の活動の総括

イオンとして、ISO14001に基づく環境マネジメントシステム(EMS)の構築に着手してから、はや6年が経過しました。この間に、ISO14001または9000シリーズの認証を取得したグループ内企業は、2004年2月20日現在で19社となりました。ISOの運用・定着状況については、各社・各事業所ごとに格差はあるものの、着実な成果があがってきています。例えば、過去重篤な結果をもたらしていた「油流出事故」については、日常管理の強化・設備の見直し、該当従業員に対する教育・訓練の徹底など事故の予防に取り組んできた結果、2003年度には発生件数が大幅に減少しています。これはISOの運用とリスクマネジメントがうまく結びついた成功事例といえましょう。

一方、2003年度は「コーポレートガバナンス改革」(委員会等設置会社への移行)「グループマネジメント改革」(イオン(株)の事業持株会社への移行)への着手を受け、EMSも大きな変革の時を迎えました。マイカルをはじめとする新たな企業の仲間入りなどによるグループの成長により、イオンの事業活動にともなう環境への影響もプラス面・マイナス面ともに拡大しています。例えば環境保全型商品であるトップバリュグリーンアイは、より多くのお客さまにお届けすることができるようになりましたが、まだ満足できるレベルではありません。またCO₂排出量については、イオン全体でいかに総量を管理していくかが大きな課題となっています。一方個別企業レベルで見ますと、イオン(株)では2003年度、小売業としての本来業務と環境負荷の低減をより強く連携させることをめざしてきましたが、多くの目標が未達に終わりました。

私たちはまだ、環境への影響の大きさに見合った成果を得るにはいたっておりません。

より大きくなっている社会からのイオンへの期待に応えるためには、現在各社個別に動いている環境への取り組みを統合し、強力なシナジー効果を発揮するとともに、各社が置かれている環境や業態に応じた個別の活動を充実させていく必要があります。私たちはISOをそのためのマネジメントツールとして位置づけ、2005年には認証取得40社体制をめざします。同時に環境のみならず広く社会的責任を果たすために、既存のマネジメントと一体となった、イオン環境マネジメントシステムの構築をめざしてまいります。

第三者評価 「イオン環境・社会報告書2004」について



森島 昭夫氏
財団法人 地球環境戦略研究機関 理事長

毎年、イオン環境・社会報告書の第三者評価を担当させていただいているが、2004年についても東京都内の2つの店舗を訪問して、イオン行動規範が現場でどのように実施されているかを検証した。店舗の1つは、品川区天王洲のショッピングモールに隣接したジャスコ品川シーサイド店であった。開店1年余の大規模な店舗であり、雨水利用によるクリーニングなどの省資源の配慮も行き届いている。「トップバリュ」と名づける安全と環境に配慮した商品、特に産地直結の環境配慮商品「トップバリュ グリーンアイ」やリサイクル家庭用品「トップバリュ 共環宣言」が売場の中央にドンと多数並べられているのは圧巻である。売場の店員さん(パートの店員のようであった)に商品のことを聞いても自信を持って説明してくれたが、このことから、イオンにおいてトップバリュ商品が、経営方針だけでなく現場でも、完全に定着していることが分かる。また、品川シーサイド店では、リサイクル繊維衣類や天然油脂石鹸などのエコロジー製品を販売するファッションショップ「SELF+SE RVICE」の売場面積を大きくとり、衣類の回収リサイクルも行っている。売場で聞くと、消費者はリサイクルを正面から意識せず、むしろファッション感覚で買っていくという。それでよいのではないか。消費者を通じてイオンのこうした環境配慮への展開が社会を変えていくことに繋がっていくであろう。訪問したもう1つの店舗は大田区のジャスコ御嶽山駅前店であった。品川シーサイド店と対照的に開店18年の小規模な店舗である。ところが、トップバリュ商品が店舗中央の目立つ場所を占め、店の力点が顧客の安全と環境の配慮にあることは明確に示されていた。特に最近の消費者は、食の安全に対する関心が高いところから、品川シーサイド店でもそうであったが、グリーンアイ農産物の生産農家との間で農薬使用に関する情報交換をインターネットや携帯電話で即時に行うなどの仕組みが工夫されていた。包装紙などの安全に関する表示も以前より詳しくなっている。総じて言えば、イオンの行動規範は年を追って現場にしっかりと根付きつつあるように思われる。



後藤 敏彦氏
GRIフォーラムジャパン 代表幹事

2回目のサステナビリティ・レポートとして中身も充実してきました。持続可能な社会の構築に主体的にかかわろうとするイオンの姿勢がよく表れています。サステナビリティ・レポートの内容として、環境・経済・社会の3つの側面、いわゆるトリプル・ボトムラインの考えかたがあります。これは単にこの3分野を記載すればよいというものでなく、これらが重なり合って全体として持続可能な社会構築にかかわり、企業の持続的な発展についての説明となっていることが必要です。小売業の場合、環境と社会、社会と経営の融合度合いが高いと思われますが、あらゆる面でお客さまの声をいかそうという活動、工夫がなされ、わかりやすく説明されています。

今年の報告書で「すごい」と思いましたのは「イオンサプライヤーCoC」の推進です。今、企業の取り組みのなかで、世界的に注目されているもっとも大きな課題のひとつがサプライチェーン・マネジメントです。環境についてのみ考慮するグリーン購入も一次サプライヤーはまだしも、商品の源流までたどることは容易ではありません。これを国際市場における人道的、倫理的な面まで含めて実行するというところに着手されたのは日本の小売業として初めてではないでしょうか。増大しつつあるテロの根本原因は途上国の貧困です。すべての事業者がイオンと同じ取り組みをすることが世界の平和につながると思います。

注文としては、まず目次ですが、これだけの内容の報告書ですので、もうすこし大きくわかりやすくしたほうが全体を読みやすくすると思います。次に、昨年「社長のコミットメント」ということが極めて重視されるようになっています。考えかたはいいですが、その意味で社長の巻頭言についてはもっと扱いを大きくするほうが良いと感じました。また、随所にイオン用語がでてきますが、グループ外の者にはわかりづらいので、減らすか脚注をつけるのが良いでしょう。最後に、従業員や地域社会などへの経済的貢献、還元等についての情報などの充実も期待したいところです。

イオンの主な概要

営業収益 (連結対象)	決算期	(百万円)
	2000.02	2,522,210
	2001.02	2,738,638
	2002.02	2,934,592
	2003.02	3,086,504
	2004.02	3,546,215

営業利益 (連結対象)	決算期	(百万円)
	2000.02	71,212
	2001.02	92,060
	2002.02	119,222
	2003.02	132,172
	2004.02	132,212

経常利益 (連結対象)	決算期	(百万円)
	2000.02	64,689
	2001.02	87,415
	2002.02	114,759
	2003.02	127,431
	2004.02	131,354

店舗数	2004.02	2003.02
●GMS事業	665	460
●スーパーマーケット事業	579	452
●ドラッグストア事業※1	1,561	1,443
●ホームセンター事業※2	-	57
●コンビニエンスストア事業※3	2,633	2,361
●デパートメントストア事業	3	3
●専門店事業	2,666	2,585
●ディベロップ事業	-	-
●金融サービス事業	58	62
●サービス事業	665	582
●フードサービス事業	579	332
●物流加工・商事事業	-	-
●eコマース事業	-	-

※1 ドラッグストア事業の店舗数には、イオン・ウェルシア・ストアーズに参加するイオンの連結対象外の企業も含まれています。

※2 2003.02のホームセンター事業57店舗は、2004.02ではGMS事業に含まれています。

※3 コンビニエンスストア事業の店舗数にはフランチャイズ店も含まれています。

《表紙のこトバ》 ちょっとなつかしい家族の情景が並んでいます。祖父母や父母の慈しみが教えてくれたのは、だれもが微笑み、いきいきと輝いていることの大切さ。時代を超え、世代を超えて、脈々と受け継がれてきた豊かな人間環境を未来に伝える責任が、私たちにはあります。そのために一人ひとりが何をすべきか、何ができるのか、このレポートが考えるきっかけになれば。そんな思いを表紙にこめました。



イオン株式会社
取締役兼代表執行役会長
(2004年5月19日付にて取締役兼取締役会議長に就任予定)

私たちは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献することを誓う」不変のイオン理念を具現化すべく、日々「正しい行動」を実践し、本報告書においてもこれを詳しく報告させていただきました。

私たちは「お客さま第一」を磁石に「地域一番のサービス」の集合体としての企業であり続けたいと願っています。そのためにまず「お客さまの声」に真摯に耳を傾けることからすべてを始める姿勢を第一としています。

イオンでは、2003年度も数多くの「お客さまの声」を頂戴いたしました。もちろんお叱りの声も多くあります。一つひとつ徹底的に改善し、結果を報告していく継続的な活動こそ「経営の透明性」を担保するものと考えます。

私たちイオンは昨年、委員会等設置会社に移行し「コーポレートガバナンス改革」をスタートさせました。その中にはイオン独自の諮問委員会(アドバイザリーカウンシル)を3つ設置し外部の皆さんに自由な提言をしていただく仕組みを導入しました(「お客さま」諮問委員会、「夢のある未来」諮問委員会、「経営」諮問委員会)。中でも「夢のある未来」諮問委員会は環境保全、社会貢献活動、そしてブランディング活動に関し、社内の人間とは違う視点でいろいろご指摘をいただくことを制度化したものです。

私たちはイオンを経営の透明度が高くて分かりやすい企業にしたいと考えています。第一にお客さまから分かりやすい企業であると同時に、グループに働くすべての従業員からも全貌が見え、イオン行動規範に則し一人ひとりがどう変わったかが問われる企業をめざします。

本報告書にて2003年度のイオンの環境保全、社会貢献活動を報告させていただきましたが、2004年度以降も「お客さまの声」に最も敏感な企業となるよう、ためらうことなく変革への挑戦を続けたいと決意しています。



VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。



イオン 環境・社会報告書編集委員会

お問い合わせ先 本報告書の内容やイオンの環境保全・社会貢献活動について、ご質問やご意見がございましたら下記にご連絡ください。

イオン株式会社 環境・社会貢献部 〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1 Tel:043-212-6037 Fax:043-212-6790 イオンホームページ <http://www.aeon.info/> 2004年5月10日発行